

清流の国ぎふ芸術祭

第4回ぎふ美術展

GIFU ART EXHIBITION

2022年8月13日(土)～28日(日)

主催 岐阜県・岐阜県美術館

(公財)岐阜県教育文化財団

目次

ごあいさつ	2
審査員講評	4
受賞作品	12
出品目録	26
関連プログラム	30
応募要項	38
応募状況	40
来場者アンケート	41
広報	42
記念品と作家紹介	45
運営体制	46
企画委員長総評	47

ごあいさつ

過去69回の歴史を重ねた岐阜県美術展を刷新し、「清流の国ぎふ芸術祭」の柱の一つとして2018年度に再スタートした「ぎふ美術展」も、今回で4回目を迎え、北は北海道から南は四国まで、4歳から97歳までの皆様の力作、881点のご応募をいただき、従来の「県展」にとどまらない“広く開かれた美術公募展”として県内外で認知されつつあることを、大変嬉しく思います。

審査員には、文化勲章受章者や日本芸術院会員など各分野の第一人者に今回もご就任いただいていることが目玉の一つですが、その方々が口をそろえて、作品のレベルの高さ、表現の幅広さに感心しておられました。

展覧会では、厳正な審査の結果選ばれた入選・入賞作品367点を岐阜県美術館に展示し、あわせて会期中の週末には全部門の作品講評会や審査員らによるトークイベントを開催しましたところ、コロナ禍での開催にもかかわらず、1万5千人を超える大変多くの方々にご来場いただくとともに、新たな鑑賞スタイルとして前回より始めた「3Dバーチャル美術展」も大変ご好評をいただいております。

かくも、盛大に開催できましたこと、本展の開催にあたり格別のご尽力を賜りました関係者の皆様に、改めて心より感謝申し上げます。

次回開催予定としております2024年度には、「清流の国ぎふ」文化祭2024（第39回国民文化祭、第24回全国障害者芸術・文化祭）が開催される年でもあります。今後も、「ぎふ美術展」を契機として、岐阜県の芸術文化の更なる発展に繋がるよう努めてまいります。

岐阜県知事 古田 肇



ごあいさつ

“ぎふの夏”を彩る美術の催しとして定着しつつある「清流の国ぎふ芸術祭 ぎふ美術展」は、毎回、新しい試みを加えながら、地域で創作に励む人々の発表の場として開かれた公募展を目指してまいりました。

今回の第4回展も、コロナ禍の厳しい環境下での開催となりましたが、1万5千人を超える多くの皆さまにご来場いただき、盛況のうちに全日程を終えることができました。

老若男女の別無く、また障がいのある方も無い方も等しく、月日をかけてひたむきに創作した作品の数々を、当代の各分野の第一人者である作家・評論家の先生方からの審査により、作品そのものが持つ価値を評価していただく。このことは第1回展から一貫しています。

展覧会の手法にも少し工夫を凝らし、様々な事情により会場へお越しになれない、あるいは、足が遠のいている方々にも、音楽やインターネットをかけあわせることで観覧のきっかけにさせていただこうと、地元の音楽家による美術展応援コンサートを美術館に隣接する岐阜県図書館において開催したほか、ウェブ上で「3Dバーチャル美術展」や対談・作品講評会の動画の公開にも取り組んでまいりました。

今回は、2024年度に開催を予定しています。同年、本県全域で催される「清流の国ぎふ」文化祭2024につながる公募展として、地域の芸術文化の発展に貢献できるよう準備してまいります。

最後に、「第4回ぎふ美術展」において格別のご支援を賜りました審査員の先生方、企画委員並びにご協力をいただきました関係各位に深く感謝申し上げます。

公益財団法人岐阜県教育文化財団 理事長 高木 敏彦





齋 正機
SAI Masaki
日本画家
両口屋是清美術顧問

ぎふ美術展賞作品「待宵」は今回の審査において象徴的な作品である。「醸し出す佇まい」が素直に心の柔らかい場所に響くのだ。そして優秀賞「稲葉山」からは「風景を深くみつめる愛情」を感じ、同じく優秀賞「フィレンツェのショーウィンドウ」からは、「お菓子をみた喜び」をじわじわと感じるのだ。この賞作品3点には、絵を描くことに大切な「心に届く」何かがあるんだんがあるのが嬉しい。

奨励賞の「初夏」「神聖」には、日常では見逃してしまいうような「まなざし」を感じる。また「想う日」の夕日には制作者と同じような感傷を共有できる何かがある。

他にも入選作品で気になった作品は何点もあった。「視線」には「真正面からみつめる強さ」、「雪景色」からは「あの日、あの時の温度」、「祈 平和」からは「大きな願い」、「土山」からは「土の持つ色の素朴な美しさ」を感じさせてくれた。

絵は鑑賞者がいて成り立つ。一人よがりではなく、見る側との共鳴こそ醍醐味だということを感じさせてくれた。そんな審査だった。



千住 博
SENJU Hiroshi
日本画家
日本芸術院会員

今、目の前に並んだ入賞作を前にして、絵というのは、結局は作者の人柄ではないかと、言い尽くされた言葉を思い出しています。

素直に見て、素直に描く、それは易しいことではありません。どうしてもエゴが入ります。しかしながら芸術というのは、素直さが原点で、到達点なのです。ですから、それを目指して欲しいのですが、その素晴らしい素直な作品が目の前に並んでいるのです。

そして、私は、という自己表現ではなくて、私たちは、という人称で語られる世界表現です。私たちはこういう世界に生きています、どうですか？という問いかけです。その時、見る方が、私もそう思う、ということ共感といいます。多くの方の共感を得る作品は、皆さんの共通項で語られた作品です。つまり、人間として感動し、人間として描かれた作品です。

ここには世界の誰が見ても共感できる夢があります。生きる力があります。平和な日常があります。素晴らしい世界に出会えて、私は幸せを感じています。





奥谷 博
OKUTANI Hiroshi
洋画家
日本芸術院会員

第2回展に続けての審査で、前回は、もっと大作が多かったが良い意味で整理され、自分の力量を考えての大きくなったと感じた。全体的に深い作品が多くなり、これが大切な事であるが描き切ったという作品も見られた。

ぎふ美術展賞の田中茂さんの「唐草黎明期」は、大作であり大変な力作である。作品として描き切ったという感があり、宇宙観がある。秀作である。

優秀賞の大塚佳美さんの「自然はみている」は、画面全体に異様に感ずる形の力強い木を表現した。力強い作品になっている。優秀賞の村田莉緒菜さんの「無題」は、作品に透明感を感じ、明るい色彩で画面がモダンである。

奨励賞の「静かなる眼光。」の石神純一さんの作品は、描き切った力強さがあり若々しい力強さを感じず。杉田泰昌さんの「兵庫運河の作業船」は、運河の広がり、自然の位置を意識して表現しているところが強みである。西本智子さんの「少女と象」は、子供の様な純粋な見る目が、感ずる力が真実にせまっていて強い作品になっている。野崎庄司さんの「路地階段」は、自然を見て色々な形を感じることが出来る。それが作品にも生き、目の動きが少しずつ階段を上り、中央の空に自然と動く構図となり大変良いと思う。



榎木 野衣
SAWARAGI Noi
美術批評家
多摩美術大学教授

全体に荒々しい表現主義的な傾向よりも、静謐で透明感ある作品に優れたものが多かった。コロナ禍となり内なる自己へと内省の目が向かった結果だろうか。それらの絵は、20世紀初頭に猛威をふるったスペイン風邪によるパンデミックのあとで、新即物主義と呼ばれる独特の醒めた目線が芽生えたことを想起させる。

ぎふ美術展賞を受賞した田中茂さんの「唐草黎明期」はその結晶とも呼べる秀作だ。子供たちと動物たちの見つめる空の彼方にはなにがあるのか。夢のようでいて冷徹なりアリズムに写実とも超現実とも異なる新時代の息吹を感じた。

優秀賞となった2作、大塚佳美さんの「自然はみている」と村田莉緒菜さんの「無題」にも、同様の眼差しが見て取れる。拳を振り上げたかのような樹木は人の彼方にある自然からうち振るわれている。浴槽でかがむ人物は顔を伏せて自己の内を凝視する。奨励賞の2名も人が不在か、もしくは世界に背を向ける石や動物の存在感に巧みにアプローチしている。





建島 哲
TATEHATA Akira
多摩美術大学学長
埼玉県立近代美術館館長

彫刻部門は応募点数はすくなかったが、クオリティーの高い作品が揃っていました。

ぎふ美術展賞の清水朋文さんの大作は斜めに傾いた塔と分断された壁のような石塊（層状の刻みがほこどされている）とを組み合わせたもので、不可思議な物語性を感じさせる表現に魅せられました。

樋口勝彦さんの「生命（いのち）のかたち」はいくつかの有機的な形態の木塊を組んだ作品で、大小のノミ跡の違いを生かしたテクスチャーや、ボリューム感と空洞とを対比させた構成が興味深い。タイトルにこめられた祈りのような思いが、その表現により深い奥行きをもたらししているようでもあります。川上正昭さんの「変化する熱II」は、半透明のパラフィンの分厚い板を何層も重ねた作品で、ソリッドな物体とは異なった、一種ニュートラルでもある質感を生かした特異な造形感覚を評価しました。

今回はトルソや頭像などのいわゆる塑造の具象作品が見られず、抽象作品が大半を占めているという、具象の復権が著しい昨今では珍しい内容であったことも注目されてよいでしょう。



吉野 毅
YOSHINO Takeshi
彫刻家
日本芸術院会員

嘗て、「彫刻をはかる物差しが、以前はひとつでよかったが、今は幾つあっても足りない」と、嘆いた人がいた。まさに今回の審査でも、物差しを用意し、当て嵌めていくこと自体が困難な作品があった。

その作品は「メロディーツリー」と題され、木製の円柱に葉っぱと覚しき数枚の板が、螺旋状に差し込まれその階段を小さな球体を転がすと、心地のよい音色がでる仕掛けになっていた。傍に置かれた箱の中には数枚の板が入っていた。多分、板を差し変えることで音色も変わることが想像される。作者が子供の頃親しんだ遊具からの発想かもしれない。

彫刻という概念そのものが、大きく変化しつつある現在、実材（石・木・金属・陶など）に対する知識と、実材を形体にする技術、そして作品に込める明確なメッセージを持ち合わせている。入選者の皆さんにお願いしたい。創作をする喜びと、作業をする充実感を多くの皆さんに伝えて欲しい。





田嶋 悦子
TASHIMA Etsuko
陶芸家
大阪芸術大学教授

このたびの工芸部門への出品数は88点。多種多様な作品に出会い、あらためて作り手が想う工芸について、その幅の広さを感じました。工芸は人間のやまない創作への想いが様々な素材と技法で表現されます。応募作品の中から、とりわけ心揺さぶられるパッションとオリジナリティを求めて審査にあたりました。

ぎふ美術展賞に輝いた作品は、おおらかで微笑ましく、ワクワク感いっぱいのエネルギーを放ち不穏な世の中を吹っ飛ばしていました。作品を大型化させているパーツジョイントについて、頭部を体部にかぶせるスタイルにユニークさを感じました。

優秀賞の「刻憶04 一芍薬一」は、染料が布に浸透する表現がほとぼしる生命を見事に一体化しているような、気迫ある作品でした。奨励賞の「泉」は、見る人の視線を塊状ガラスの奥深い世界へ静かに誘っていました。「美濃乃壺」は、破天荒でとらわれない様子が窺え、美濃のダイナミズムに溢れていました。



宮田 亮平
MIYATA Ryohei
金工作家
文化庁 前長官

工芸部門は全体的に出品されている作品はとてもレベルが高く、又ジャンルの幅広さを感じた審査会であった。

特にぎふ美術展賞を受賞した宮城暁一氏の「Derrière ses yeux (瞳の奥に)」はいままでの陶芸の概念を越えて大胆でありながら繊細な作品であり、なんと頭部が揺れ動く仕組になっていることは見る人々を暖かく囲みこんでくれる作品であります。

又、岩井美佳氏の作品「刻憶04 一芍薬一」は全体をモノトーンとし、大きなムーブマンを持って見る人々に色々な感情を引き出させる力作であります。抽象表現で有りながらもどこか具象的なものを感じさせる魅力が内蔵されております。そして各務郁子氏の「たけくらべ美登利」は実に繊細にして日本の伝統文化である着物の着付けの美しさ、そして赤い鼻緒のポックリや手提げ袋の配置の気配りが物語性を十分に生かされ、そこに現代風の髪の毛の緑がマッチされた秀作であります。

最後になりますが入賞・入選されました、すべての方々に対してお祝いを申し上げます。





高木 聖雨
TAKAKI Seiu
書家
日本芸術院会員
大東文化大学名誉教授

ぎふ美術展、2度目の審査を担当させていただいたが、レベルの高さは以前にも増して向上しているように感じられた。特に行草作品には目を見張る作品が多く、実に充実した審査を体験させていただいた。

ぎふ美術展賞を受賞された石黒直子さんは古筆をしっかり習熟され、更に余白を見事にとらえ、明るく爽やかな作品となった。

優秀賞、奨励賞は行草書、篆書、かなから選出したが、どの作品も練度が高く見応えのあるものばかり、充実した展示となるでしょう。

今後も古典を拠り所として、高度な技術を身につけ、更に飛躍した作品を書かれることを期待しております。



鍋島 稲子
NABESHIMA Toko
台東区立書道博物館主任研究員
東京国立博物館客員研究員

ぎふ美術展は、応募者の年齢を問わない開かれた芸術祭と伺っておりました。書部門も、幼稚園児からベテランの方まで実に幅広い年齢層の作品が172点、分野も漢字、かな、調和体、篆刻と、多岐にわたった力作が勢揃いしました。漢字は行草書に秀でた作品が多く、今回の審査においても行草書の入選率が高い結果となりました。かなは中細字作品のレベルが高く、古典に立脚した造形と連綿の美しさに惹かれました。

今回の審査で特に評価したいのは、子供たちの作品です。幼稚園児（作品を書いた当時）の「ちえ」は、力強く堂々とした書きぶりが印象的でした。小学生の「気」は、まさに気に満ちた迫力のある作品、中学生の「桜桃」は、名前も含めてバランスのとれた伸びやかな作品です。これほどの力量がある子供たちの作品を見て、書の未来は明るいと感じました。今後もぜひ、ぎふ美術展で力作を発表されてください。期待しております。





土田 ヒロミ
TSUCHIDA Hiromi
写真家
金津創作の森美術館館長

21世紀に入りデジタル技術の日常生活への浸透は、写真表現にも大きな影響を及ぼし、個人の自由な表現を目指す人々の参加をもたらしてきているはずであるという時代背景を意識しながらの選考を心がけた。

このような時代の変化は、奨励賞の「(気泡) 飛散症」でコンセプチュアルなアート指向強い作品となって現れて来ている。また、車庫をストレートに撮影し、光の複雑な反射、透過の現象を深く読み込んだ優秀賞の「リフレクト」にも新しい美意識を感じる。

また、大胆なフレーミングで歪みの空間を3枚の組写真で表現した奨励賞の「異空間」、デジタルの色調で遠近法を消去し異次元の空間を作り上げた奨励賞の「カラーコーン」などが、新しい時代を予感させる作品として目を引いた。しかし又、従来のスナップショットの典型的表現として奨励賞の「神男」は、完成度が高い。撮影者の視覚を超えて被写体と合一した超越的時空間に酔いしれた体験がカタチとして残されていて、更にそのエロス、モノクロームの色調が静かに押さえるという見事な完成度の作品となっている。

そして、ぎふ美術展賞の「里山の狩人」は、枯木に獣のイメージを発見し、角度を変え対置から捉えた発想力は素晴らしい。また、日常の撮るに足りない町の情景を拾い集め散文的に仕上げた20枚で構成の優秀賞の「坂出 ～すみなすものは心なりけり～」には、今後の写真表現の可能性を示唆してくれる作品であった。



光田 由里
MITSUDA Yuri
美術評論家
多摩美術大学教授

レベルの高い応募作品で、激戦でした。デジタル加工による視覚的效果の工夫よりも、面白い対象や現象を発見して採りあげるといふ写真の王道をいく作品が目立ったと思います。

ぎふ美術展賞は、木塊を季節ごとに追った「里山の狩人」、さりげなくオブジェのドラマが作られています。

優秀賞の「坂出 ～すみなすものは心なりけり～」は町歩きスナップの力作です。「リフレクト」はフロントガラスの映り込みとフェンスの綾なす、実体と虚像の交錯が抽象的で眩暈のしそうな視覚効果が秀逸でした。

奨励賞は、縦位置でそろえ視界を絞りこんだシャープな構成が斬新な「異空間」、建築作品の個性と撮影者の造形力が噛み合っています。「カラーコーン」は打ち捨てられたプラスチック片たちが色彩の妙、光と影のコントラスト、ジグザグ構成のうまさで特別な光景となっています。フレッシュな女性陣の応募作も印象的でした。次回もぜひ応募ください。





立島 恵
TATEJIMA Kei
佐藤美術館学芸部長

自由表現部門は、何処にもカテゴリーされない者にはうってつけの提示の場だ。自分の好きな素材、得意な技法でストレートに勝負するもよし、それらを様々組み合わせせて模索、思索の限りを尽くすのも良いだろう。

今回のぎふ美術展賞の「極彩色の円周率2022」は、どちらかというとも後者の印象を抱いた。澄明な色の組み合わせは、如何に美しいリズムをつくれるかが鍵。本作はそれを円周率に置き換えることで、通常我々が導き出せない配色を実現していた。

優秀賞は何れも紙による造形となった。「情報の集積」は新聞紙のうえに約1cm角の白い紙を貼り付け、市松模様を施された張子の猫。その愛らしい形態と繊細な模様の共存が美しい。もう1点は、段ボールを使った巨大な土偶ならぬ「ダ偶」。圧倒的な迫力と段ボールらしからぬ強固なつくりが目を引いた。

他の作品も多くのアイデアと拘りによる豊かな造形性を感じるものが多かったことを、最後に記しておきたい。



山本 豊津
YAMAMOTO Hozu
東京画廊代表

「自由表現」では表現のための素材と技法に制限がないので、応募者の年齢も4才から80才過ぎまで幅がありユニークな作品が散見されました。

今回のぎふ美術展賞に選んだ「極彩色の円周率2022」の墨勝之さんは80才、奨励賞の「しあわせのあつまり」の野瀬昌鷹さんは12才ですが、お二人の作品は「自由表現」がないと応募も受賞もされにくいと思います。歴史的に重要な数学定数である円周率を色彩の順列に使うとは墨さんのコンセプトは素晴らしいです。野瀬さんの造形力と色彩の豊かさは、授けられた人間の直観力をどのように維持できるのかを考えさせます。子供は文字を学習するとアートへの興味を失ってしまう今の教育とは？

他の優秀賞の2人、「目型ダ偶」の竹内裕紀さんの大胆さや「情報の集積」の遠藤慎太郎さんの細部へのこだわりなども、アーティストを目指す人たちが見習わなければならない表現のポイントを掴んでいて、「自由表現」ならではの作品でした。





清流の国ぎふ芸術祭

第4回ぎふ美術展

GIFU ART EXHIBITION

ぎふ美術展賞 「待宵」 樋口 ナオミ (岐阜市)





優秀賞
「稲葉山」
川地 勲子 (岐阜市)



優秀賞
「フィレンツェのショーウィンドウ」
横山 真穂 (各務原市)



奨励賞
「初夏」
田中 まさこ (岐阜市)



奨励賞
「神聖」
古川 幸代 (垂井町)



奨励賞
「想う日」
山名 しおり (京都府)

ぎふ美術展賞 「唐草黎明期」 田中 茂 (羽島市)





優秀賞
「自然はみている」
大塚 佳美 (岐阜市)



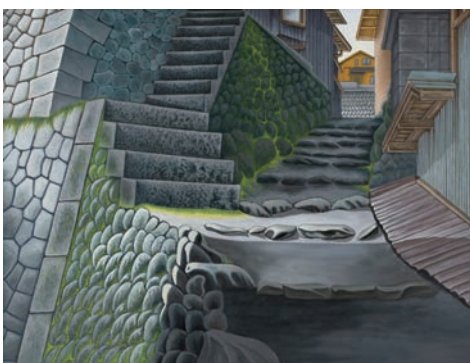
優秀賞
「無題」
村田 莉緒菜 (関市)



奨励賞
「静かなる眼光。」
石神 純一 (多治見市)



奨励賞
「兵庫運河の作業船」
杉田 泰昌 (愛知県)



奨励賞
「路地階段」
野崎 庄司 (郡上市)



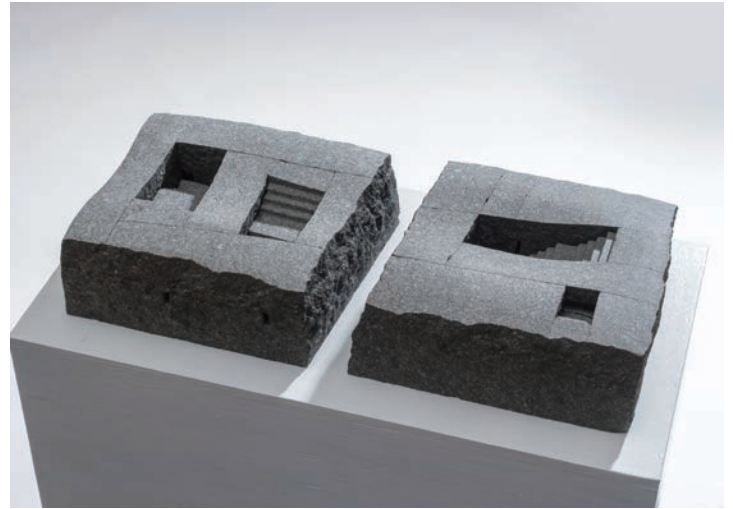
奨励賞
「少女と象」
西本 智子 (三重県)

ぎふ美術展賞 「道の空」 清水 朋文（大垣市）





優秀賞
「生命(いのち)のかたち」
樋口 勝彦 (岐阜市)



優秀賞
「2つの迷宮」
菅原 光則 (山県市)



奨励賞
「イカリ[怒り]」
安藤 治 (岐阜市)



奨励賞
「メロディーツリー」
渡邊 正康 (飛騨市)



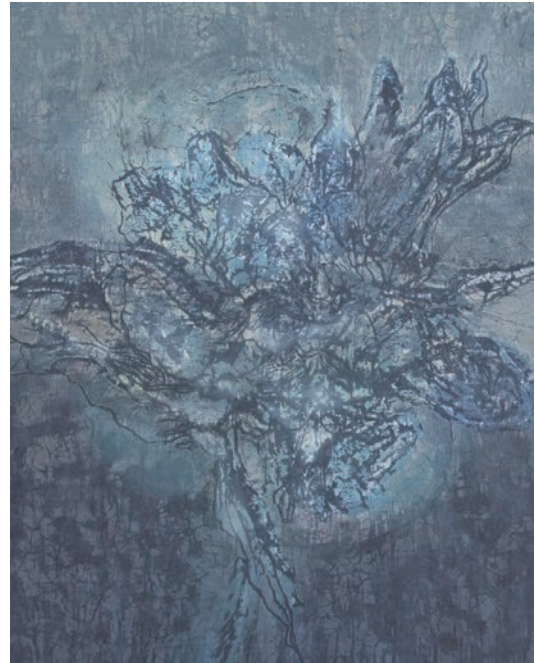
奨励賞
「変化する熱II」
川上 正昭 (滋賀県)

ぎふ美術展賞 「Derrière ses yeux (瞳の奥に)」 宮城 暁一 (愛知県)





優秀賞
「たけくらべ美登利」
各務 郁子 (八百津町)



優秀賞
「刻憶 04 一芍薬一」
岩井 美佳 (石川県)



奨励賞
「美濃乃壺」
小木曾 教彦 (多治見市)



奨励賞
「うららか # 鼓草」
山根 よ志枝 (関市)

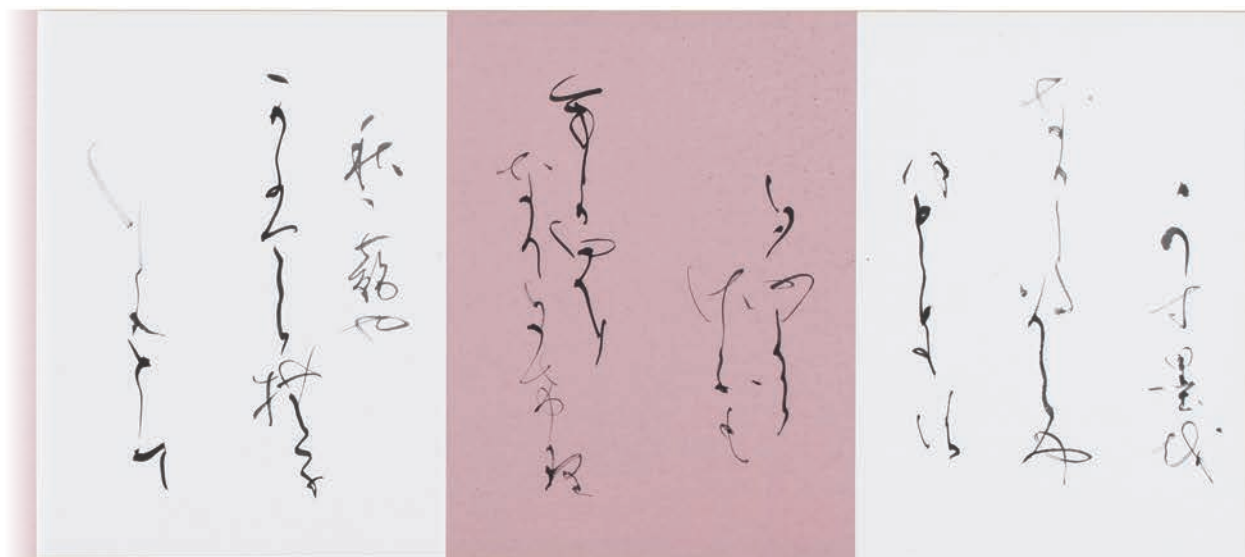


奨励賞
「黒釉斑大鉢」
水野 東三 (瑞浪市)

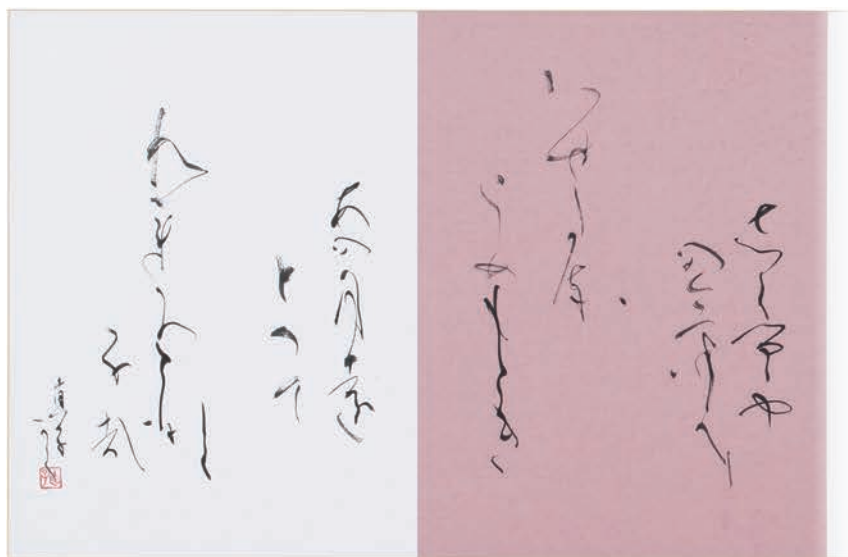


奨励賞
「泉」
杉村 俊介 (富山県)

ぎふ美術展賞 「時鳥」 石黒直子（愛知県）



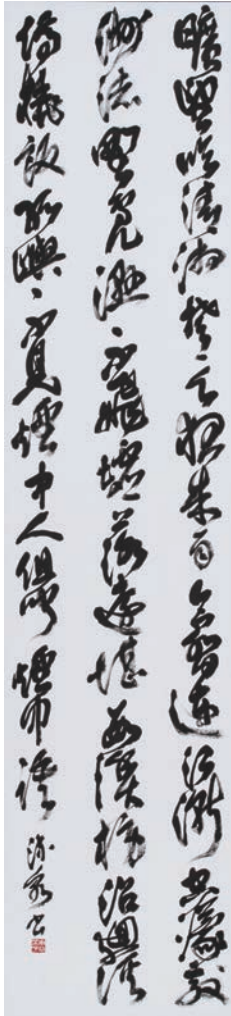
(右 3/5)



(左 2/5)



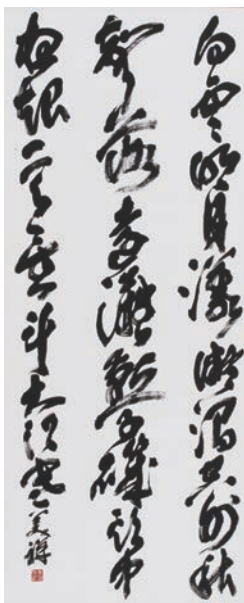
(全体像)



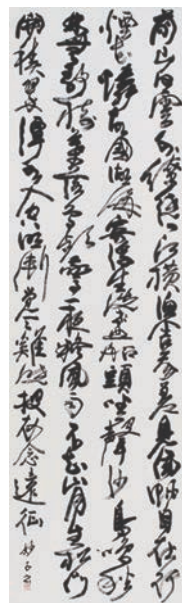
優秀賞
「雨登湘中閣眺望」
南谷 流泉（羽島市）



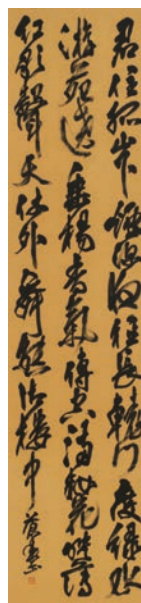
優秀賞
「寧僭無濫」
樋口 大振（千葉県）



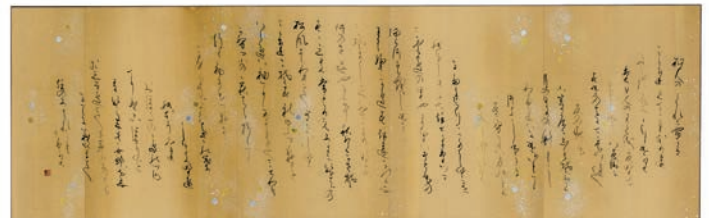
奨励賞
「傳昂霄」
戸田 美祥（岐阜市）



奨励賞
「五律二首」
星田 妙子（岐阜市）



奨励賞
「君住孤山下」
徳田 蒼春（高山市）



奨励賞
「山家集抄」
古山 玉扇（御嵩町）

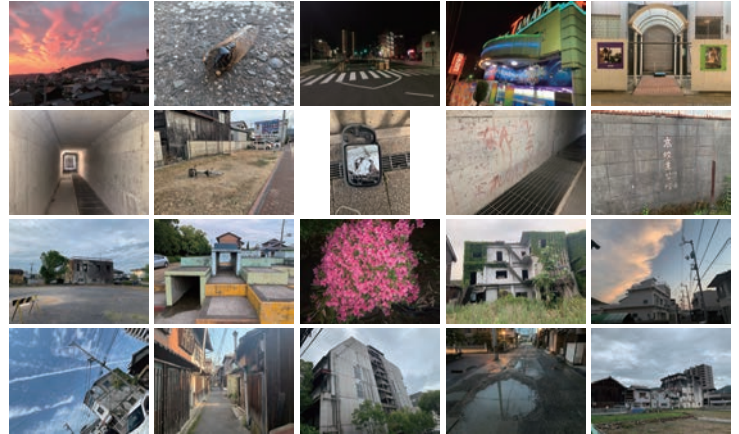
ぎふ美術展賞

「里山の狩人」 本間 かよ (岐阜市)

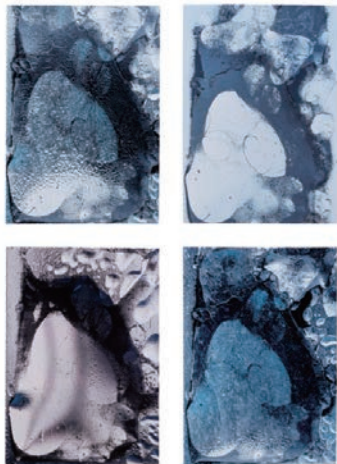




優秀賞
「リフレクト」
市原 俊寛 (本巢市)



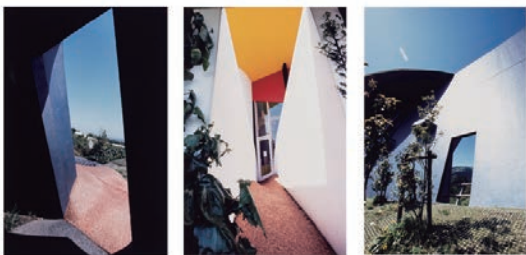
優秀賞
「坂出 ～すみなすものは心なりけり～」
山田 晋司 (香川県)



奨励賞
「(気泡)飛散症」
田中 清文 (岐阜市)



奨励賞
「神男」
大久保 金行 (大垣市)



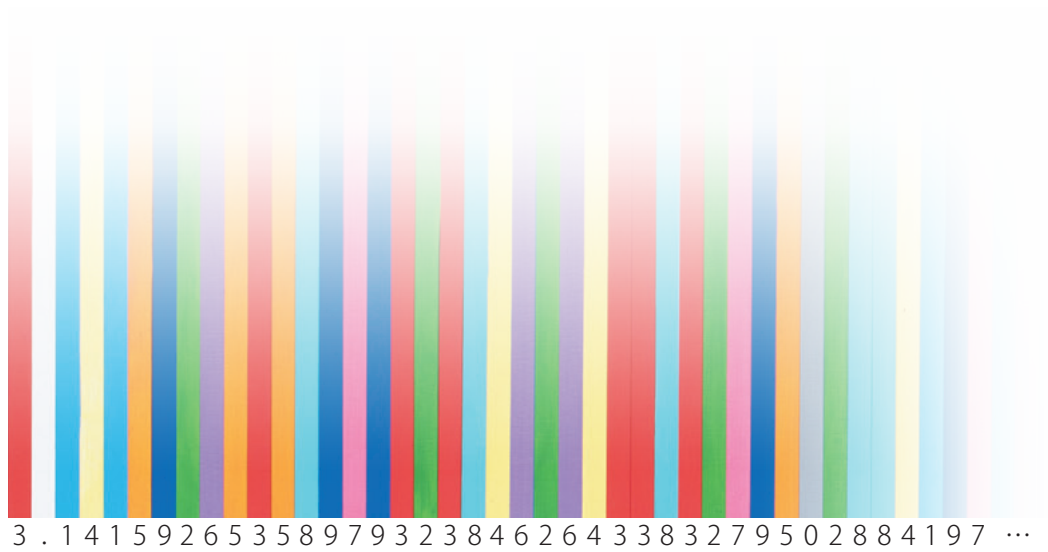
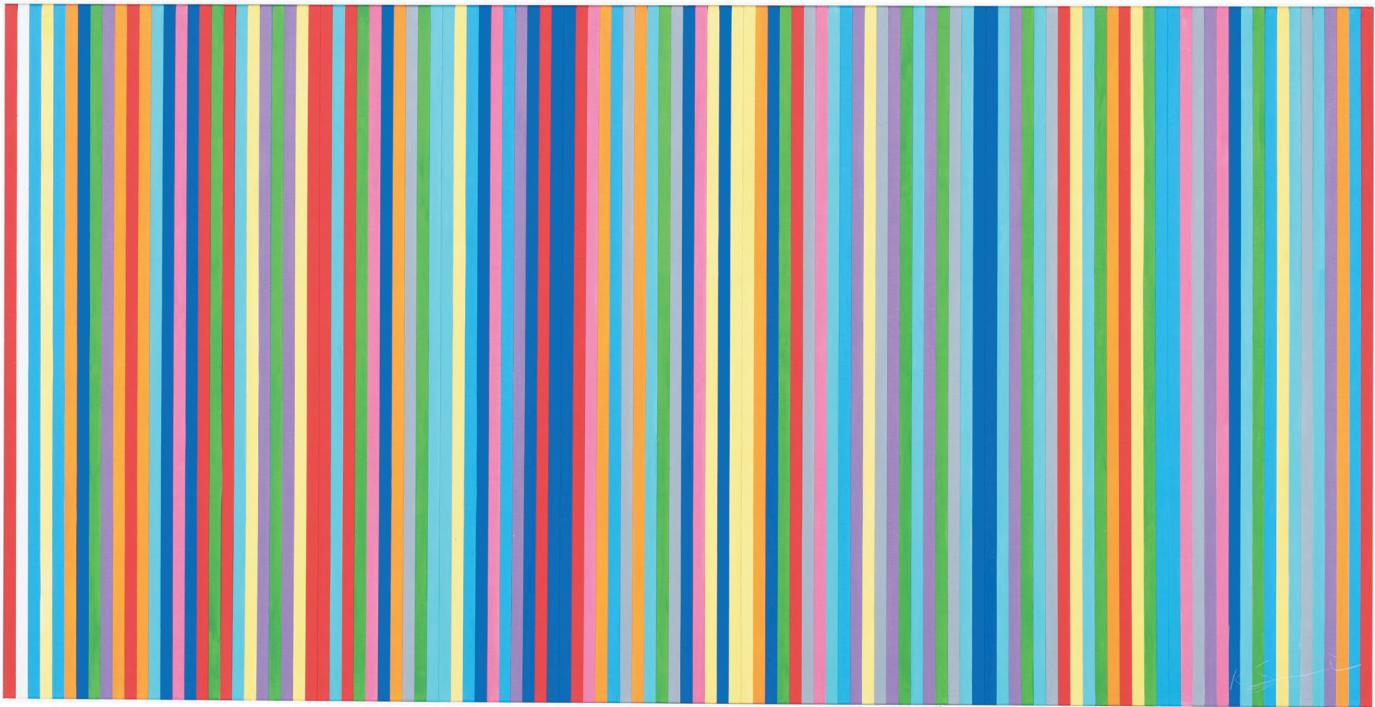
奨励賞
「異空間」
林 道子 (瑞穂市)



奨励賞
「カラーコーン」
小笠原 浩二 (愛知県)

養老天命反転地
© 1997 Estate of Madeline Gins. Reproduced with permission of the Estate of Madeline Gins.

ぎふ美術展賞 「極彩色の円周率2022」 墨 勝之（岐阜市）





優秀賞
「目型ダ偶」
竹内 裕紀 (岐阜市)



優秀賞
「情報の集積」
遠藤 慎太郎 (愛知県)



奨励賞
「諸紙布語 「糸の行方」」
空 桜 (美濃市)



奨励賞
「しあわせのあつまり」
野瀬 昌鷹 (愛知県)



奨励賞
「幾重にも重ねる 現れる」
田口 由佳 (愛知県)



奨励賞
「MIGRATION」
坂本 大地 (大阪府)

出品目録

日本画

ぎふ美術展賞	待宵	樋口ナオミ	岐阜市
優秀賞	稲葉山	川地勲子	岐阜市
優秀賞	フィレンツェのショーウィンドウ	横山真穂	各務原市
奨励賞	初夏	田中まさこ	岐阜市
奨励賞	神聖	古川幸代	垂井町
奨励賞	想う日	山名しおり	京都府
入選	ゆるる	伊藤睦美	岐阜市
入選	成就の喜び	井上勝	岐阜市
入選	土山	河村光恵	岐阜市
入選	私とわたしの信仰と	佐藤正子	岐阜市
入選	騒々	高橋奈穂子	岐阜市
入選	MONKEY MAGIC	福田公美	岐阜市
入選	NO WAR	亀谷隆明	関市
入選	cantabile	高木美智子	中津川市
入選	樹の声	林美都子	美濃加茂市
入選	夕立	川井庸弘	可児市
入選	赤靴を履いた日	宮原剛	可児市
入選	夕化粧	水野壽子	瑞穂市
入選	春光響香	田端貞満	飛騨市
入選	初春のころ	浅井新太	下呂市
入選	視線	中島颯白	下呂市
入選	暁月夜	木村敦子	笠松町
入選	祈 平和	河合翠山	関ヶ原町
入選	雪景色	角田典子	千葉県
入選	晴れ、時々曇り	前田さやか	東京都
入選	INNER VOICE 2022- 元始	松澤敬子	長野県
入選	からくり因果律	小林実沙紀	愛知県

洋画

ぎふ美術展賞	唐草黎明期	田中茂	羽島市
優秀賞	自然はみている	大塚佳美	岐阜市
優秀賞	無題	村田莉緒菜	関市
奨励賞	静かなる眼光。	石神純一	多治見市
奨励賞	路地階段	野崎庄司	郡上市
奨励賞	兵庫運河の作業船	杉田泰昌	愛知県
奨励賞	少女と象	西本智子	三重県
入選	生命倫理	青木千賀子	岐阜市
入選	おかーしゃん!ゆきだねえ!	安藤加奈子	岐阜市
入選	赤い街の記憶-悪ガキ仲間	安藤孝信	岐阜市
入選	青い鳥	押味忠志	岐阜市
入選	人道回廊	佐藤正己	岐阜市
入選	Family	杉浦佑治	岐阜市
入選	真夜中のファンタジー	竹内美代子	岐阜市
入選	ほのか	武山隆	岐阜市
入選	おかしな富士山	林寿一	岐阜市
入選	やすらぎ	細尾直子	岐阜市
入選	昇華 ~希望~	三宅洋子	岐阜市
入選	ワンピース	村瀬久美子	岐阜市

入選	何処から来たのかな	森岡啓子	岐阜市
入選	大山	Yoshihisa	岐阜市
入選	或る情景	久世久子	大垣市
入選	絆	小藪達也	大垣市
入選	畑に光が溢れている	志知佳子	大垣市
入選	ひまわり	高田鈴代	大垣市
入選	Different cultures,different beauty.	竹中円香	大垣市
入選	ボクらはみんな生きている	谷口拓司	大垣市
入選	パステル色の石灰工場	早野純一	大垣市
入選	眠る	柳田康子	多治見市
入選	ひとつの夢・ひとつの想い	足立義一	関市
入選	川あそび	池田明	関市
入選	天照	onemu	関市
入選	バレリーナ	久保政雄	関市
入選	見つめる	後藤正枝	関市
入選	海賊船	長尾柊哉	関市
入選	青空市と看板猫	馬淵あき美	関市
入選	平和なテーマを書き換えなければ ならないのは誰のせい!?	宮田隆	関市
入選	タチモグラとの遭遇	Yuri	関市
入選	月への道標	天野るみ子	中津川市
入選	刻の形象	牛越諒	中津川市
入選	記憶の形	可知則雄	中津川市
入選	鉄の街	鈴木昌義	中津川市
入選	MY LIFE	西尾香純	中津川市
入選	うろこ雲の頃	須藤信利	瑞浪市
入選	イエスはハデスに下り、 信者の復帰を命じた	土屋英一	瑞浪市
入選	星祭りに行こう	大塚たか子	羽島市
入選	美濃の天鷲絨	久保田奈純	美濃加茂市
入選	晩秋の坂折棚田	恒川安正	美濃加茂市
入選	白山神社	渡辺道也	美濃加茂市
入選	Kitchen	阿部芳久	各務原市
入選	あ、なんだ	葛西加津博	各務原市
入選	或るお寺の鬼瓦	酒井勝正	各務原市
入選	アヤトリ・GO!	島谷三千男	各務原市
入選	或る日	須田敦子	各務原市
入選	人と人	永縄久司	各務原市
入選	気色	山田和子	各務原市
入選	MODERN SOCIETY	TAMURA PATRICIA	可児市
入選	A・B・C	金森栄二	山県市
入選	故墟	加納明莉	山県市
入選	運搬車と発動機	岩田好博	瑞穂市
入選	捨てられない、	小川ひろみ	瑞穂市
入選	穏やかな水面	小島由美子	瑞穂市
入選	夢でみた地球の浮かぶ街	SAWAKO	瑞穂市
入選	冬を越した、あるじ無き「柿の木」たち	塚田耕作	瑞穂市
入選	湿るたけなわ	馬場はるな	瑞穂市
入選	自然のハーモニー	野々山富子	本巣市
入選	漂 2022-1	横山孝子	本巣市

入選	ブルーモルフォ・ファンタジー	森照造	海津市
入選	時代が変わり、今へ	森延男	笠松町
入選	国宝、彦根城	寺倉孝太	養老町
入選	夢の跡	高木昭子	垂井町
入選	モン族の朝市	THAO	八百津町
入選	柄2	小熊杏奈	千葉県
入選	沈黙のせせらぎ	横山陽一	神奈川県
入選	3.11 その時 先生の言うことを聞いていたのに 石巻市大川小学校の悲劇	浮橋美頭	富山県
入選	かえる じゅんぴ	片岡大知	福井県
入選	M氏への招待状	あらかわ佳子	愛知県
入選	マネキンのようなもの	岩田清志郎	愛知県
入選	棄景（頂き塔）	大口良介	愛知県
入選	落葉	小川真澄	愛知県
入選	アルペンホルンの調べ	奥村正人	愛知県
入選	ユニバーサル	小倉照江	愛知県
入選	トニー・クラッグのポスターの前の女	小倉義夫	愛知県
入選	遺棄された歳月	鎌野重義	愛知県
入選	残像	島田加寿子	愛知県
入選	クーラント2	鈴木孝治	愛知県
入選	走る	鈴木康代	愛知県
入選	Remember	鶴田将司	愛知県
入選	アマルフィ海岸	藤森麻里	愛知県
入選	亀次郎との思い出	まこ	愛知県
入選	まちのかたち	松本悠	愛知県
入選	淡水の仲間たち	MANA	愛知県
入選	ははのて	宮地恭子	愛知県
入選	小さな命	片岡利仁	三重県
入選	あんの	寺田朋代	三重県
入選	触る	也志燦	滋賀県
入選	私の神様	Hideko	奈良県

彫刻

ぎふ美術展賞	道の空	清水朋文	大垣市
優秀賞	“生命（いのち）のかたち”	樋口勝彦	岐阜市
優秀賞	2つの迷宮	菅原光則	山県市
奨励賞	イカリ[怒り]	安藤治	岐阜市
奨励賞	メロディーツリー	渡邊正康	飛騨市
奨励賞	変化する熱II	川上正昭	滋賀県
入選	僧侶	今枝大輔	岐阜市
入選	彩生	小栗千廣	岐阜市
入選	テロメア-滅亡からの誕生	篠田和幸	大垣市
入選	パンザイ母ちゃん	原田直政	多治見市
入選	飛び立つ	深尾忠明	関市
入選	治に居て乱を忘れず	伊佐治孝文	土岐市
入選	虚無	松原賢典	岐南町
入選	空也上人	岩間幸夫	北方町
入選	影像	鈴木百萌	北方町
入選	無題	伊藤敦	愛知県

工芸

ぎふ美術展賞	Derrière ses yeux(瞳の奥に)	宮城暁一	愛知県
優秀賞	たけくらべ美登利	各務郁子	八百津町
優秀賞	刻憶 04 一芍薬一	岩井美佳	石川県
奨励賞	美濃乃童	小木曾教彦	多治見市
奨励賞	うららか#鼓草	山根よ志枝	関市
奨励賞	黒釉斑大鉢	水野東三	瑞浪市
奨励賞	泉	杉村俊介	富山県
入選	古希に寄せて	青豆若枝	岐阜市
入選	鉄バラのランプ	赤石幸夫	岐阜市
入選	岐阜の花火	大西達也	岐阜市
入選	灰織部花器	木村雅行	岐阜市
入選	タタラ急須	久保田学	岐阜市
入選	イギリス コーン・ウォール	栗本肇	岐阜市
入選	収穫	馬淵規子	岐阜市
入選	TOtoTO (陶と藤)	加藤えい子	大垣市
入選	つれづれ	加藤敏一	大垣市
入選	染付芳華紋注器	島田芳博	高山市
入選	願い	田川裕之	多治見市
入選	旋律	足立義一	関市
入選	十二角栗盆	木戸口幸人	関市
入選	王様(ワニ)	市川公平	中津川市
入選	瑞凜	加藤緑	中津川市
入選	3650	加藤彰子	瑞浪市
入選	ペガサス	山田峰司	羽島市
入選	Forza	eltte	土岐市
入選	安寧	大谷典子	各務原市
入選	禿(子供から大人へ)	加藤洋子	各務原市
入選	海艇	子林千紘	各務原市
入選	国宝 犬山城	渡邊誠	各務原市
入選	金銀彩紋「まる」	馬場澄子	可児市
入選	大皿	志水ゆめか	瑞穂市
入選	ふわあ	後藤恵子	飛騨市
入選	紅の夢	小竹直美	垂井町
入選	蓋つぎ器	林正次	神戸町
入選	Blue Bird	原明美	神戸町
入選	楽園	馬淵たず子	神戸町
入選	草々の息	マヤイカム	揖斐川町
入選	Holes 一土と水一	若原文子	大野町
入選	守人-MORIBITO-	高橋いそ子	池田町
入選	花器	岩間育子	北方町
入選	Pear 彩雲	林大介	富山県
入選	Diversity	斎藤知子	長野県
入選	述懐する形	伊藤萌	愛知県
入選	願い	岡澤律子	愛知県
入選	和かじゅある小鉢 5客セット	菅原信子	愛知県
入選	菊 蓋物	辻藤良子	愛知県
入選	笑門来福	中島美咲	愛知県
入選	三段重 花蝶	土方輝	愛知県

入選	白青染縄文器	山本昌弘	滋賀県
入選	happiness	坂本直輝	京都府
入選	そっと覗いてね	佐野邦巳子	大阪府

書

ぎふ美術展賞	時鳥	石黒直子	愛知県
優秀賞	雨登湘中閣眺望	南谷流泉	羽島市
優秀賞	寧僊無濫	樋口大振	千葉県
奨励賞	傅昂霄	戸田美祥	岐阜市
奨励賞	五律二首	星田妙子	岐阜市
奨励賞	君住孤山下	徳田蒼春	高山市
奨励賞	山家集抄	古山玉扇	御嵩町
入選	石章十八方	浅野修竹	岐阜市
入選	七言律詩	安藤郷子	岐阜市
入選	蔣士銓詩	居上紅滄	岐阜市
入選	ALe ALe ALe	石樽溪雨	岐阜市
入選	古を	石村晃子	岐阜市
入選	舟暮	白井紅逄	岐阜市
入選	元好問詩	大橋由季	岐阜市
入選	実朝の歌	清水青蘭	岐阜市
入選	花鳥風月	鈴木萌乃夏	岐阜市
入選	陸游詩	高橋未歩	岐阜市
入選	舒位詩	花井蘭徑	岐阜市
入選	謝肇淵詩	古田清流	岐阜市
入選	漢詩 富士山 室鳩巢	吉田祥山	岐阜市
入選	劉嗣紹詩	大石窓雪	大垣市
入選	張南史詩	平田京華	大垣市
入選	無為法	本寒山	大垣市
入選	梅が香	石田竹涯	高山市
入選	三十六歌仙より	山本京子	高山市
入選	禄寿応穩	小島研司	多治見市
入選	蘇東坡詩	岩崎白峯	美濃加茂市
入選	朱子詩	今田紅溪	各務原市
入選	贈孫生	加藤艸舟	各務原市
入選	林章詩	北澤素心	各務原市
入選	趙嘏詩	木全梅花	各務原市
入選	吳蘭雪詩	高橋芳翠	各務原市
入選	北原白秋の歌	長屋天虹	各務原市
入選	陳汝言詩	林春翠	各務原市
入選	山家集より十首	浅野蛭雪	可児市
入選	山家集	古山仙華	可児市
入選	李白詩	仁木麻祐子	山県市
入選	三十六歌仙七首	吉井美代子	山県市
入選	嵐光	守屋実咲	本巢市
入選	秋菽	加藤玉華	郡上市
入選	春の日に	庄村清泉	郡上市
入選	左思詩	松本紅華	郡上市
入選	厲鶚詩	長屋純子	笠松町

入選	松口月城詩	溝口彩風	垂井町
入選	唐詩	河合翠山	関ヶ原町
入選	唐詩二首	牛田春煌	安八町
入選	朱熹詩	山田香遙	揖斐川町
入選	王維詩	勝野翠	池田町
入選	徐禎卿詩	三間恵翠	北方町
入選	李東陽詩	後藤雙華	坂祝町
入選	臨 王鐸	可児春麗	御嵩町
入選	ちえ	遠藤絢香	静岡県
入選	気	遠藤莉子	静岡県
入選	強心守	坂井祐斗	静岡県
入選	桜桃	澤入美沙	静岡県
入選	檸檬	柴崎聡治	静岡県
入選	元	菅原蓮	静岡県
入選	鳳梨	田平彩鳳	静岡県
入選	この里の	伊藤弥生	愛知県
入選	春日野の	上野明美	愛知県
入選	山の葉の	柴名孝枝	愛知県
入選	あかねさす	小森裕子	愛知県
入選	梅の花	佐藤典子	愛知県
入選	睡蓮	西脇聖園	愛知県

写真

ぎふ美術展賞	里山の狩人	本間かよ	岐阜市
優秀賞	リフレクト	市原俊寛	本巢市
優秀賞	坂出 ～すみなすものは心なりけり～	山田晋司	香川県
奨励賞	(気泡) 飛散症	田中清文	岐阜市
奨励賞	神男	大久保金行	大垣市
奨励賞	異空間	林道子	瑞穂市
奨励賞	カラーコーン	小笠原浩二	愛知県
入選	海月の冥想	安部彰	岐阜市
入選	そこで私は踊りだした	大澤恵梨香	岐阜市
入選	スプラッシュ	加藤千陽	岐阜市
入選	窓	可児芳春	岐阜市
入選	天空列車	後藤守忠	岐阜市
入選	思考	重野知美	岐阜市
入選	日日	杉山省治	岐阜市
入選	残り柿	長野勝	岐阜市
入選	夏物語	服部香蘭	岐阜市
入選	書道パフォーマンス	水野鈴可	岐阜市
入選	鏡面の森林	横関令奈	岐阜市
入選	だいじょうぶ	市村茂雄	大垣市
入選	気持ちいい!	高木俊満	大垣市
入選	最後の居所	間部光男	大垣市
入選	花火	岩茸伸一	高山市
入選	1/2000 Secの世界	北村顕	高山市
入選	夜明け	小島武	高山市
入選	代償	谷口京子	高山市

入選	湖畔のステンドグラス	谷脇勲	高山市
入選	吹雪の渓谷	直井隆義	高山市
入選	続いてほしい酒屋さん	船渡純子	高山市
入選	月彩雲にはしゃぐ雲海	山村利春	高山市
入選	咆哮	代情岑郎	高山市
入選	残映	廣田昭男	関市
入選	まる子「メイクに目覚める」の巻	大塚高明	美濃市
入選	弛まぬ努力	赤地穂乃香	美濃加茂市
入選	蒼刻	因幡純一	美濃加茂市
入選	昇華（モネの池）	菅野富春	各務原市
入選	長良川鶴飼開幕	杉山浩	各務原市
入選	富士山と Dr.Yellow	渡邊道雄	各務原市
入選	年に一度の	今井弓月姫	可児市
入選	ハンドパワー	小林凜	可児市
入選	Light Painting	鈴木龍祐	可児市
入選	追憶	中島遙斗	可児市
入選	桜の季節と鳥事務員	山口真夕	可児市
入選	おにいちゃん!	横山敦三	可児市
入選	狭視野	渡邊結衣	可児市
入選	師走の町	土田和明	山県市
入選	朝焼けの穂高	吉田昌樹	山県市
入選	輪廻転生	尾内治良	飛騨市
入選	BLIZZARD	白木来	飛騨市
入選	志摩町阿津里浜落陽	玉越春雄	郡上市
入選	静寂	坂野昭八	郡上市
入選	二輪二輪	尾藤知	郡上市
入選	絆	福谷昌己	下呂市
入選	ホワイトエンジェルズ	成瀬憲司	岐南町
入選	大あくび	吉田由佳	岐南町
入選	光彩	岩田久男	垂井町
入選	里の母	江上瑠美子	垂井町
入選	クライマックス	小竹久子	垂井町
入選	アイスカプセル	藤塚裕悦	垂井町
入選	サギソウ First Flight	三島敏秀	垂井町
入選	草とり	神戸孝司	輪之内町
入選	春の兆し	末松正弘	揖斐川町
入選	一粒の種	対馬めぐみ	揖斐川町
入選	廃屋 ドレスアップ	吉田たつ枝	大野町
入選	挑む	太田育伸	富加町
入選	エンジン	坂田留菜	御嵩町
入選	僕の青春	西尾彩華	御嵩町
入選	真剣	山田彩乃	御嵩町
入選	気づかれる	えん しん	東京都
入選	獲物	岩本彩子	三重県
入選	秋の彩り ～白川郷～	小林寛久	三重県

自由表現

ぎふ美術展賞	極彩色の円周率 2022	墨勝之	岐阜市
優秀賞	巨型ダ偶	竹内裕紀	岐阜市
優秀賞	情報の集積	遠藤慎太郎	愛知県
奨励賞	諸紙布語 「糸の行方」	空桜	美濃市
奨励賞	幾重にも重ねる 現れる	田口由佳	愛知県
奨励賞	しあわせのあつまり	野瀬昌鷹	愛知県
奨励賞	MIGRATION	坂本大地	大阪府
入選	絶滅種標本箱 [Extinct species specimen box]	井戸義智	岐阜市
入選	COUNTRY HOUSE short distance edit 4:47	コモリンゲキ	岐阜市
入選	Gotham City	ジャムアーツ	岐阜市
入選	リン タングル ～染まらない世界～	辻村凜	岐阜市
入選	himawari	hazama	岐阜市
入選	夕刻の人びとを迎えに出発する	久田善純	岐阜市
入選	Earth Communication	メルチデザイン	岐阜市
入選	蝶屏風 パタフライエフェクト	平塚雅弘	大垣市
入選	「M」 嵐の夜に	西本裕子	高山市
入選	辿り着き得たものと夢を見る	可知井英敬	多治見市
入選	母の思い出	馬淵あき美	関市
入選	ナスのようせいの世界には	Yuri	関市
入選	Kisekai Asobi	大山孝子	中津川市
入選	雨降る町並み	山口真二	美濃市
入選	手	遠藤拓夢	羽島市
入選	天舞虹龍図	渡邊千尋	恵那市
入選	蠢動 岐阜市 1884/1907/1927/1955	津田みなみ	各務原市
入選	心里さがし	中村龍美	山県市
入選	ユニコーン「エルサちゃん」	那須あかり	瑞穂市
入選	リズムののってカタカタ	渡邊正康	飛騨市
入選	伽	T.てつじ	本巣市
入選	わた絵「もういいかい♪」	堀田きよみ	本巣市
入選	猫神様降臨	山下順子	郡上市
入選	毎日神様仏様	堀慎哉	岐南町
入選	PSYCHIC 2022	伊藤英高	神奈川県
入選	言論を踏みにじり武力侵攻に対する抗議文	林原武夫	富山県
入選	わ	遠藤優月	静岡県
入選	蓮	井上桂子	愛知県
入選	scratch	坂井良美	愛知県
入選	前門の虎	長谷川優	愛知県
入選	今日の食卓（冬）	早川美香	愛知県
入選	フルーツは空を飛ぶ	bonbontentou	愛知県
入選	キャンパス1	まこ	愛知県
入選	Deep Sea	Yuri Nakamura	愛知県
入選	見えざる敵	渡会千枝	愛知県

「清流の国ぎふ芸術祭」の概要

戦後間もない昭和 21 年から平成 27 年に至るまで 69 回の歴史を刻んだ「岐阜県美術展」は、時代の変遷や表現の多様化に対応した見直しによって、新たに「清流の国ぎふ芸術祭」として3つの事業を柱に展開しています。

1 つめの柱は、2017 年、創造力溢れる新たな才能の発掘と育成を目的に第 1 回が開催された、革新的な企画公募展「Art Award IN THE CUBE」。

2 つめは、より広く県民に作品発表の機会を提供する公募展「ぎふ美術展」。

そして3つめの柱となるのが、年間を通じ、県内各地で様々なスタイルのプログラムを展開し、アートに親しむ場(ラボ)を提供するアート体験プログラム「アトラボぎふ」です。

清流の国ぎふ芸術祭		
(2017,2020,2023)	(2018,2019,2021,2022)	(2018~毎年実施)
Art Award IN THE CUBE 全国規模の公募展 ・新たな才能の発掘と育成 ・アートに関わる人材の育成とネットワークづくり ・県民に新たな形のアートの鑑賞機会を提供 ・3年に1回開催	ぎふ美術展 県民に広く開かれた美術公募展 ・美術に親しむ県民の裾野を拡大 ・県民の創造力、鑑賞力の向上に寄与 ・創作活動に励む全ての県民に発表の機会を提供 ・3年に2回開催	アート体験プログラムーアトラボぎふー 幅広い県民が参加できる美術講座、ワークショップ等を全圏域で展開 ・美術に対する関心を高めるきっかけづくり ・美術に関する視野を広げ、知識、技術を向上させる機会を提供 ・毎年実施

清流の国ぎふ芸術祭 アート体験プログラム
アトラボぎふ

「アトラボぎふ」を通じて、「アート」は決して堅苦しく敷居の高いものではなく、人それぞれが感じたことを楽しむのびのび表現することで、人それぞれの価値観、多様性を、お互いが理解しあうことにつながるような、そんなきっかけになればと願っています。

この「アトラボぎふ」の一環として、「第4回ぎふ美術展」期間中にも、県美術館の会場でプログラムを開催しました。

クロストーク ■ 奥谷博 × 宮田亮平

テーマ／「藝術無終～創り続けるということ～」

日 時：8月14日(日) 13時30分～14時30分
場 所：岐阜県美術館 講堂
参加者：70人

奥谷博氏と宮田亮平氏がそれぞれの原点を振り返りながら「藝術無終」について語るクロストークとなった。

奥谷氏は東京藝術大学専攻科時代に林武先生から「青が必要」と教えられた。青は空気が描ける色、青を入れれば色が綺麗になり、形もはつきりつかめてくるということであった。それ以降の作品には、常に青が非常に重要な位置を占めていることに宮田氏もうなずく。描いた本人のそばに立って一緒に作品を見てくれる、林先生からの無言の教えが、藝術無終の始まりだった。

奥谷氏の絵が厚塗りから薄塗りへの転機となったのは 28 歳。賛否はあったが若き多感な時期に藝大の教授らからの言葉に勇気付けられたと明かす。

近年の大作「底力」は描いていく過程で、天燈鬼^{てんとうき}の位置が下がり、背景が海に変わったとのこと。絵描きには、決断力・勇気・向上心が必要、少しでも昇っていききたいという気持ちがないと駄目だと話す奥谷氏に、宮田氏は工芸家も同じだと同調する。

一方、宮田氏の幼少期の絵には、すでにイルカが描かれている。今や宮田氏の代名詞ともいえるイルカの原点が、ここにある。

ドイツ留学後、故郷の佐渡から越佐航路の中で、受験のための上京時にイルカに偶然会ったことを思い出した宮田氏は、イルカをテーマにした作品「シュプリングェン」第 1 作目を作る。イルカに目が無いことに、奥谷氏が言及すると、目をあえて入れないことで、見た人が感情を作品の中に入れてもらえたらいいのではないかと宮田氏は語る。

東京駅にある待ち合わせのシンボル「銀の鈴」第 4 号を作成できたことは、非常に嬉しかったが、それ以上に嬉しかったことは、奥谷氏の絵のモチーフとして描かれたことだと宮田氏。イルカが泳ぐレリーフのデザインに宮田氏のセンスが光る。

次に、岡崎駅にある徳川家康公の像を紹介。会場に居た作者の神戸峰男氏(彫刻家・日本芸術院会員・ぎふ美術展企画委員会委員長)が、両氏にうながされ登壇する。日本一のものを作ってほしいという岡崎市民の要望に応え、高さが 5 m30cm にもなる巨大な像は、馬に乗って弓矢を持っている若き日の家康公を作ったもの。家康の生きた時代と同様に、大きく沈み込めば大きく飛べると語る神戸氏の言葉は、奥谷氏が語った藝大での時代と通ずる。

最後に、宮田氏より、世に残る、歴史に残る、ということがいかに大事か「藝術無終～創り続けるということ～」という奥谷氏の言葉について触れ、対談を終えた。



クロストーク ■ 土田ヒロミ × 前田真二郎

テーマ／「現代写真における記録と表現」

日 時：8月20日（土）13時15分～14時45分
場 所：岐阜県美術館 講堂
参加者：49人

土田氏が話し手、前田氏が聞き手となり、写真家である土田氏の作品から記録と表現についてたどるクロストークとなった。

デビュー作「自閉空間」(1969-1971、1971年太陽賞受賞)は、化粧品会社勤務時代に撮影したもの。ほぼ同時期に撮影した「俗神」(1969-1976)から、自分の生きている時代(現在)に合わせて大きく日本の文化を考えてみよう意識的にやってきたと土田氏は話す。村の宴会に一步踏み込んで撮りに入ると、思いもよらない現実が浮き上がってくる。「俗神」というタイトルには、“自分自身が実は俗だということを自覚する人々の姿”という考えが込められているが、テーマを展開していく大きなコンセプトとして“自分自身は一体、何者なのか”という問題提起があった。

写真家としての活動を開始した土田氏の次の作品「ヒロシマ 1945-1979」(1975-)は、作文集「原爆の子」に寄稿した方を取材したものの、土田氏自身で電話帳を頼りに、100人以上の寄稿者を尋ね歩いたが、取材を拒否されることもいくつかあった。拒否される現実を表現することが大事であり、被爆者であることを隠して生きている方たちを撮らなければ意味がないと語る土田氏の写真表現は、テーマによって全く撮り方が異なる。

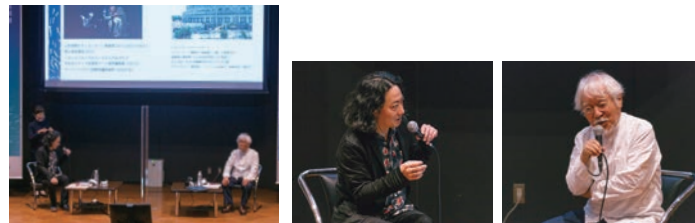
「ヒロシマ 1945-1979」から始まり、広島市内を定点撮影した「ヒロシマ・モニュメント」(1979-)、広島平和記念資料館に寄贈された物を撮影した「ヒロシマ・コレクション」(1981-)からなる「ヒロシマ」シリーズは、作家性を消し、淡々と撮影された作品で、土田氏からそれぞ

れの写真に簡単な説明文が添えられている。土田氏は話す、「自分の日常と何ら変わらない街角を撮る。現在という時間に興味があるので、表現のスタイルをどんどん変えていく。」と。

写真の記録性に向き合い、写真独自の表現を考えてきたのではと考察する前田氏に対して、記録をベースにしながらかえることが自身の表現として行われていると土田氏は語る。

80年代以降、定点観測で撮影した「フクシマ」(2011-)、「ベルリン」(1983-2019)、「エルサレム」(2005-)のほか、毎日自身の顔を撮り続けている「Agging」(1986-)、歌川広重の歩いた場所を探して撮る「東海道五十三次」(1995-97)など、土田氏の試みは多岐に渡る。

最後に、前田氏が写真に取り組む人へのメッセージを求めると、「現場の中では、徹底的に拾う(撮る)。そして、撮ったものを全てベタプリントにして紙で残していくべき」と投げかけ締めくくった。



クロストーク ■ 建島哲 × 吉野毅

テーマ／「彫刻の道～過去から未来～」

日 時：8月21日（日）13時30分～14時30分
場 所：岐阜県美術館 講堂
参加者：57人

建島氏が聞き手となり吉野氏の作品を紹介しながら、吉野氏が自身の作品と制作にまつわるエピソードについて語る場となった。

まず、建島氏が口火を切る。絵画と並び二大ジャンルと言われる彫刻の技法には「カービング」と「モデリング」がある。モデリングは、粘土で原型を作る。型にブロンズや石膏を流し込むことでできるのが、塑像である。

建島氏に促され、モデリングの道を選んだ理由について、学生時代に岩壁を登る山岳部での経験から、石を刻むことがどこかで怖くなってしまったからだと言及する。さらに、建島氏から、なぜ具象の道を選んだのか尋ねられると、学生時代に行った現代イタリア彫刻展で受けた、感動を伴う衝撃が具象彫刻に向かうきっかけだった。

舟越保武先生から“脚の量がとても美しかった”と葉書をいただいたことが大変嬉しく、具象を続けようと心に決めたというエピソードを聞いた建島氏。舟越氏は非常に的確に彫刻家としての吉野氏の作品の本質を洞察しているとコメントする。

次に、「三島由紀夫」の頭像が紹介されると、吉野氏は以下のことを語った。

1970年の1月から、義父である分部順治氏を手伝い、裸像の制作に取り掛かる。既にポーズも決め、どうしても大きい作品を作りたいと依頼した三島氏は、毎週日曜日の14時の時報と同時にやってきた。三島氏は義父ではなく吉野氏に興味があるようで、よく話しかけてきたとのこと。デッサンを描く目的を尋ねる三島氏に対し、素描の説明を

した翌週、三島氏は“文字の素描”を持ってきた。30分ごとの外的様子を文章で書いたものを見て、“自分がデッサンしたことにより、三島さんと僕との間に会話が成立したのだと思う”と吉野氏は語る。彫刻制作：分部順治、彫刻制作助手：吉野毅、彫刻制作監修：三島由紀夫という形で完成したのが、「三島由紀夫像」である。

三島氏没後、30年以上経過して三島由紀夫像を見たが、自分が三島氏から瞬間的に感じたものとは違うと吉野氏。モデル台に立つ彼から感じた一瞬の美しさ、まさに、アンドレア・マンテーニャの描いた『聖セバスチアンの殉教』の主人公になりきった瞬間が、彼が一番望んでいた形ではないか。そう話す吉野氏にとって、三島像の制作はまだこれからも続く。

吉野氏の作品の中には、テラコッタの作品もある。塑像のように型を取るわけではなく造形した陶土のまま作品となり、また焼成の過程を経て変化も得られるので非常におもしろい魅力があると話す吉野氏に対し、建島氏も魅力的な世界だと応じ、対談を終えた。



クロストーク ■ 齋正機 × 立島恵

テーマ／「日本画の今と未来～審査員齋正機の商品をもとに～」

日 時：8月27日（土）13時30分～14時30分
場 所：岐阜県美術館 講堂
参加者：70人

日本画家齋正機氏と、齋氏の美術館等での回顧展の監修も手がけた立島恵氏が、齋氏の作品を中心に過去から現在、これからの日本画について自由に語る対談となった。

まず、齋氏の作風の変遷を辿る。初期の作品、東京藝大時代の作風は現在の作品とは全く異なる。齋氏が過ごした学生時代は、現代美術の影響を受け、情緒的なものに頼らず、素材を含めて日本画の可能性を探っていく転換期にあった。大学院修了制作の「聲」（1994年）は、“色を使わず、情緒に頼らないでどこまでやれるか”を実験した作品である。

現代美術的な要素を研究する過程で自分自身が追い詰められていくなか、自分の描きたいものをもう1回振り返ろうと故郷の福島に帰り、2年間で300冊のスケッチをした。自分にとって原風景とは何かと正面から向き合い、現場で何をつかめるかということに原点回帰してきた作品が、オイルパステルで奥会津の只見の蔵を描いた「タチアオイクラ」（2001年）である。立島氏と齋氏の出会いのきっかけにもなったこの作品について、“自身のリアリティーのようなものが率直に出ている”と解釈してくれた立島氏の存在がとても嬉しく、だから続けられたのだと齋氏は立島氏へ感謝の気持ちを伝える。

「ヤブツバキデ遊ブ」（2008年）は、日本画の絵の具を使った作品。“にじみの部分が齋氏の絵肌の特徴であり、アクセントになっている”と解説する立島氏に対して、齋氏も“これが自分らしさだ”と同意する。構図が大胆でありながら、絵の奥まで視線を誘導する気持ちの良さを評価する立島氏。絵と一緒に文章を書いた作品、我が子の誕生をきっかけに

子どものかわいい場面を描いた「子どもシリーズ」、両口屋是清のパッケージデザインなど、齋氏の作品は多岐に渡る。

「ふくしま物語～桃源郷59の願い～」（2019年）には、故郷福島の59市町村を分解し桜に見立てて再構成した横6mの大作。福島出身の画家としての齋氏の寄り添いが表現されている。

後半、現在活躍中の作家から今後活躍が期待できる若手作家まで、各作家の作品の特色や人となりをたどる。これからの日本画の位置づけについて、未知数な部分があると話す立島氏。

自分の中から本当の自分を引き出すことが絵の強さにつながると話す齋氏に、立島氏も、しっかりデッサンをして対象を見つめる姿勢や、自分自身の表現や哲学的な“何か”というところまで昇華させることをぜひ心がけて絵を描いてほしいと投げかけ、対談を終えた。



作品講評会 ■ 日本画

講師：齋正機

日 時：8月27日（土）15時00分～16時00分
場 所：岐阜県美術館 展示室3
参加者：40人

総評

審査は、その絵から受けた第一印象を大切に1点ずつ審査員2人で講評しながら行った。

絵画はその作品だけを完成させるのではなく、そこから生まれるストーリーや展開を作っていくと面白みが生まれてくる。日本画は平面的かつ色面的なものだが、表現の工夫によって、あらゆる意味で奥行きを感じさせることができる。それによって、人の心に届くような深みが出るのである。

ぎふ美術展賞「待宵」

審査員2人とも作品のたたずまいに惹かれた。全体からは暗い雰囲気があるかもしれないが、描いたユキヒヨウの醸し出す不可思議な何か、柔らかくもあり優しくもあり、厳しくもあるような、それでいて鑑賞していてホッとする何かを感じる。

優秀賞「稲葉山」

ふるさとの山に対して愛情をととも感じる。時間をかけて、じっくりと描かれたこの作品は、作者のまなざしと思いが伝わってくる。派手な作品ではないが、稲葉山と作者の歩んできた時間のようなものも感じ、ずっと見ていたい作品。

優秀賞「フィレンツェのショー・ウィンドウ」

ショー・ウィンドウに並んだフィレンツェのお菓子を“とても美しい”と思った第一印象が絵画にちゃんと刻まれている。感動がそのまま人

に伝わる作品。感じたことを素直に表現できるということは、やはり絵画を描く上での礎である。

奨励賞「初夏」

最初に受けた印象がとても清らかだった。水槽を見つめ、金魚を興味深く観察する様子がとても自然に表現できている。また遠くの人物のたたずまいがもう一つのストーリーを感じ、色々な物語を紡ぐことができるような面白い作品でもある。

奨励賞「神聖」

橋の下の水面の美しさが素晴らしい。感動が伝わった。

この情景は、「神聖」という題名にもあるように神々しさを感じたのだろう。

奨励賞「想う日」

作者の中の大切な心象風景だろうか。懐かしいだけでなく、今も心のどこかに存在しているようなとても共鳴できる作品である。もう少し大きい画面のほうが、より人に伝わる良い作品になったと思う。



作品講評会 ■ 洋画

講師：榎木野衣

日時：8月21日（日）15時00分～16時00分
場所：岐阜県美術館 展示室3
参加者：55人

総評

美術として作品がどういう意味を持つかを考えながら審査をした。今回の傾向として、何か心惹かれる作品には、非常に冷めた目線で現実を捉えるものが多かったように感じた。疫病がまん延し、かつ戦争の気配が漂うような時代の中で生きているからなのか、様々なことを考えさせるものがあるように感じられ、そのような作品の中から選んだというのが、審査の概略である。

ぎふ美術展賞「唐草黎明期」

描かれている世界が、日常生活の1コマに近いようで、手が届かない彼方からやって来ているようでもある。かけ離れた感覚が画面の中で非常に巧みに練り上げられ、ぶつかり合いながら共存しており、難しい主題に挑戦している作品である。

優秀賞「自然はみている」

描かれた木が人の拳のよう。自然の創り出した不可思議な造形でもあるかの形がまず前面にあり、その背後に我々の日々の暮らしがあるという、両者の関係を非常に対照的に力強く対比しているところが魅力である。

優秀賞「無題」

どこか不穏なようでもあり、家庭の一場面のようにも見え、何の場面だろうかという印象が残り続けた。今の時代の不安や、少しの希望というものが混じり合っている作品。

奨励賞「静かなる眼光。」

鳥の非常に鋭い眼光には、感情の異なる起伏のようなものが折り重なって作られている。広大な空間が凝縮されているような絵の構成もあり、最後まで印象に残った作品。

奨励賞「路地階段」

石の秩序のほうに先にあり、いずれ人がいなくなっても石の世界だけは残るのではないかというような堅牢さを不思議な質感で描いている。新しい現実感を捉えつつある絵である。

奨励賞「兵庫運河の作業船」

日本の景色にも見えつつも、少し違う世界が入っているような、色々な記憶が混ざり合って作り上げられている。特定の場面だということを決めかねる気配が非常に濃く、印象的だった。

奨励賞「少女と象」

人間の世界に背を向けている子どもたちと、森の中に放し飼いになっているような動物の関係などが、折り重なっている。それが物語の一場面のように読み解ける作品。



作品講評会 ■ 彫刻

講師：建畠哲、吉野毅

日時：8月21日（日）15時00分～16時00分
場所：岐阜県美術館 多目的ホール
参加者：30人

総評

応募作品は件数こそ少なかったが、全体の水準は高かった。技法・素材が多様多様であり、一つの傾向に集約できないユニークな独自の方法がとられているという、非常におもしろい傾向だった。

ぎふ美術展賞「道の空」

非常にシンプルな造作案でありながら、謎めいたストーリーがあることが、作品の魅力になっている。石の重さや冷たさを石の表情によって意図的に無くしたことで、また空洞の立方体に無機質な石が繋がっている構成を評価する。

優秀賞「“生命（いのち）のかたち”」

微妙に変化を付けたノミ跡を作品の表情にしなから、そのノミ跡をまた消して木の質感を出す技が手慣れている。表面細部のおもしろさとシンプルな形態とを合わせ持った作品で、命をテーマに作者個人の思いが託されており印象的。

優秀賞「2つの迷宮」

遺跡から浮かべたイメージでできたことを想像させる作品で好ましい。緻密に作られてはいるが、石の貼り合わせ部分の直線が無造作であるところが惜しい点である。

奨励賞「イカリ [怒り]」

合板の薄さ・軽さと鉄の重さという異素材を構成した作品として評価する。自分の感情を叩きつけるような強さも感じるほか、合板のカー

ブと鉄の直線的なくさび形との組合せは、造形的にも非常に良い表現である。

奨励賞「メロディーツリー」

音を出してみても、子どもの時に遊んだ遊具を想像した。遊べる彫刻としてよくできており、板を差し替えれば音に変化する仕掛けも完成度が高い。明るく楽しい色使いや形自体の面白さに作者の意図が表れており、みんながおもしろい作品である。

奨励賞「変化する熱II」

柔らかくて半透明なパラフィンと、不透明な鉄という異質な組合せが良いうえに、彫るなどの意図的な造形とは別に、熱で変化する物理現象を取り入れる造形もおもしろい工夫。変化していく継続性を台座との関係で表現できると更に良い。



作品講評会 ■ 工芸

講師：宮田亮平

日 時：8月13日（土） 15時00分～16時00分
場 所：岐阜県美術館 展示室4
参加者：62人

総評

しっかりとした造形力、ハーモニーを感じるもの、多様な技法を用いたものなど、ジャンルの幅広さを感じた。工芸の作品は、技術を伝承すると同時に、自身で楽しむ仕事ができるという幅広さがある。その幅広さを意識して制作をしてほしい。

ぎふ美術展賞「Derrière ses yeux（瞳の奥に）」

まさか陶器でこれだけの大きさの作品を作るとは。マットな質感、目と耳の中に光り輝く玉眼のような雰囲気との対比のほか、少し頭をかしげるだけで全然違う表情に変わる。陶芸で頭が揺れ動く構造を作った勇気を評価する。

優秀賞「たけくらべ美登利」

ちらっと見える親指の大きさ、ふっと振り返った女性のイメージが人体構造的にしっかりしている。また、非常に伝統的な物を作っているが、緑色の髪で現代を感じさせるという時代性が好ましい。緑の髪と過去から伝承されてきた着物姿の雰囲気とがうまく表現されている。

優秀賞「刻憶 04 一芍薬一」

芍薬の花をモチーフに木綿用の化学染料を使ったのり染めで、作っている苦労が手に取るようにわかる。実にダイナミックかつ抽象的であるがゆえに、見ている人がその表現に対して色々な見方が自由のできる作品。

奨励賞「美濃乃壺」

造形してからあえて一度壊し、また再現させていくことに力強いおもしろさがある。土・釉薬の違いも表現していて、焼くときも非常に

苦労しながらバランスを作っていることが分かる。支えが無ければ転がってしまうところも、楽しみがいろんな風に再現されていく作品である。

奨励賞「うららか#鼓草」

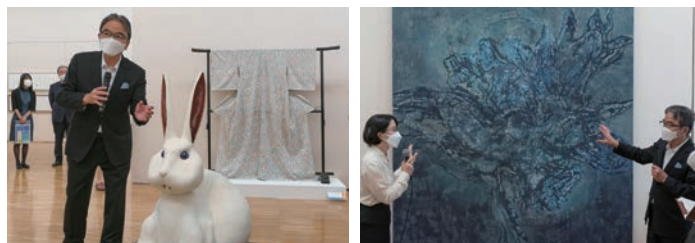
タンポポをデザインした品がある作品。ふと袖を通したくなるような季節感を感じる。冬の厳しさから春になり、ずっと待っていた爽やかな花が咲いた時の感じがよく出ており、美しい。

奨励賞「黒釉斑大鉢」

釉薬の使い方や、これだけの大皿をひけることに、大変な努力があったことを称賛したい。一方で、焼きの過程で底に丸い凹みが生じてしまっていることに陶器作りの難しさが伝わってくる。

奨励賞「泉」

ガラスの中に夢がずっと入り込んでいっている感じが実に綺麗で、見ているうちにその世界観の中に自分が溶け込んでいくような面白さがある。ガラスという素材をよく分かったうえでの作品であるところを評価した。



作品講評会 ■ 書

講師：高木聖雨、鍋島稲子

日 時：8月14日（日） 15時00分～16時00分
場 所：岐阜県美術館 展示室4
参加者：45人

総評

非常にレベルの高い作品ばかりで、特に多かった行草作品の出来の良さに驚いた。ぎふ美術展賞の作品は、一目でこの作品だと思い、審査員2人の意見が一致して選んだもの。

ぎふ美術展賞「時鳥」

江戸時代の小林一茶の俳句を書きながらも、平安時代の古筆の薫りがする作品。中字でうまく散らして細く書いているが、線が非常に強く表現できていて、明るく凛とした、出色の出来である。

優秀賞「雨登湘中閣眺望」

王鐸が生きた明末清初の激動の時代の力強さ・激しさをうまく捉えて表現できているうえに、字幅・墨の潤濁・空間の取り方が非常に細かく工夫されている。

優秀賞「寧僭無濫」

篆書の清々しさ、黒と白のバランスが感じられ、遠くから見ても非常に訴える力がある作品。粗密の付け方も良く、左右相称の字に変化が付けられており、伸びやかな運筆でまとまっている。

奨励賞「昂霄」

最も多かった行草の作品の中でも、文字の大きさ、ダイナミックさ、線に思い切りの良さが表れた堂々とした作品。加えて見せ場のいい字が真ん中に来る詩文の選択も良い。

奨励賞「五律二首」

左右に振りを入れながら、全体で見れば縦の行がしっかり通っている。墨の濃淡の変化、潤濁も巧みで大きな紙にまとめており、熟練の技を感じる。

奨励賞「君住孤山下」

唐詩を題材にし、線が非常にたくましい。三行にまとめて最後の着地も良く、背の高低差がある字をうまく配字し、落款までの全体のバランスが良く収まっている。

奨励賞「山家集抄」

平安時代の頂点の、なまめかしく、美しい古筆を存分に発揮した細字の作品。料紙も美しく、高低・強さ・柔らかさなどをリズムカルに表現した散らしの技法から、かなの魅力が伝わる。



作品講評会 ■ 写真

講師：土田ヒロミ

日 時：8月20日（土）15時00分～16時00分
場 所：岐阜県美術館 展示室4
参加者：54人

総評

賞に入る入らないに関わらず、自分のやりたいことを継続することがとても大切である。そうすると、色々なことを発見していくことができる。ぜひ、継続し、自分の撮ったものをベタプリントなどで管理し、自分の資産にしてほしい。

ぎふ美術展賞「里山の狩人」

枯れ木を見たときに、人間や動物がいるのではないかと一種のフィクションを作っている。自分と自然の風景との語りの物語を、時間を置いて持続的に撮りに行く作業が見事にできている。それを組写真で左右に振って並べているところも良い。

優秀賞「リフレクト」

リフレクションで色々なものが映っていて、非常に抽象的で、複雑な作品。ずっと見ていくと次第に謎が解けていく面白さがある。暗部を出すと、車が具体的に見えてきて、さらに良い作品になる。

優秀賞「坂出 ～すみなすものは心なりけり～」

住んでいる町を見直し、自分の中の寂しさを町の中で撮ることで癒しているという感じがあり、これだけ多くのカットでひとつのストーリーを作り、まとめていくことのできる力が非常に良い。

奨励賞「(気泡) 飛散症」

とらえどころのない生理的な形のような、一種の生命感みたいなものがあり面白い。ひとつの現象を見続けるという、見るということの

快楽を表現し、素材を組み合わせ作り上げていく力を評価した作品。

奨励賞「神男」

瞬間的なものをよく捉えており、祭りの参加者と同じレベルで、自分の身体で撮るといふ身のこなしが上手い。遠慮なく、祭りの中へ入っていける度胸、撮ることに関しての貪欲さを評価した。

奨励賞「異空間」

1枚1枚の写真は非常に不十分な、よく説明がされない状態であるが、その縦の写真を横に3枚並べることで補完し合う関係ができて、ひとつのイメージが出来上がるということが起きている。

奨励賞「カラーコーン」

非常に感覚的に、デジタルの持っている彩度を最大に使いながら異次元な空間に仕上げているところが面白い。色もさることながら、空間の認識の仕方をさらに面白くさせているのは、影の存在である。



作品講評会 ■ 自由表現

講師：立島恵、山本豊津

日 時：8月27日（土）15時00分～16時00分
場 所：岐阜県美術館 展示室4
参加者：42人

総評

異なるジャンルから美術に結びつけるようなものを探したいと思いき、審査に臨んだ。もう一歩殻を破ると、違うシーンが見えてくる。また、少しでも大きいものを作ってほしい。

ぎふ美術展賞「極彩色の円周率 2022」

永遠に続いていく無理数である「円周率」を美術に取り入れたことが非常におもしろい。抽象性が高い数学を、美術という一番具体的な行為に照らし合わせることができている。さらに、一本一本色を塗った木を寄せ合わせていることによって、プラスの効果が出ている。

優秀賞「目型ダ偶」

迫力があり、攻めている作品ながら、フォルムの可愛さもある。段ボールの絵肌を残しつつも、構造的には堅牢な印象も受け、そのバランス感覚を評価した。見え隠れする商品ロゴもひとつのアクセントになっている。

優秀賞「情報の集積」

新聞紙を切って貼った、工芸・書・自由表現の3部門にまたがる作品。猫が情報を背負っているのも、身の回りにどれだけ情報があふれているかということを表しており、考えさせられる。見る角度によって、猫らしくないように見えるおもしろさも体験できる作品。

奨励賞「諸紙布語 「糸の行方」

和紙を撚って糸にし、織物に紡ぐ過程を表現しており、色々な可能

性が感じられる。見る側の想像が広がるような仕掛けと、何を表現したいかを考え創作を続けていくとよい。

奨励賞「幾重にも重ねる 現れる」

しっかりとした絵肌の仕事の中に刺繍が新鮮なアクセントになっている。夢の中でイメージと現実との間を行き来しているような感覚がうまく表れている。

奨励賞「しあわせのあつまり」

作者自身が豊かな色彩感覚を持っているのが分かる、見ていて楽しい作品。多くの色を使いながらバランスも取れ、描く幸せも伝わってくる。様々なことを体験し自分の感性を養って、創り続けてほしい。

奨励賞「MIGRATION」

金魚が型染めですっきり抜けており、藍の色にも変化があるうえに、金魚すくいのポイとの関連付けが上手に表現されている。コンセプトも技法も完成度が高く表現領域の拡大を実践している作品。





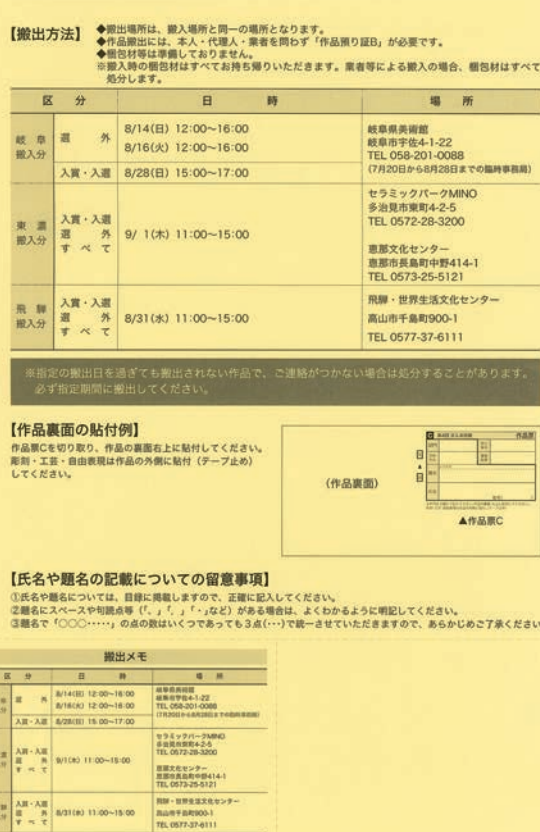
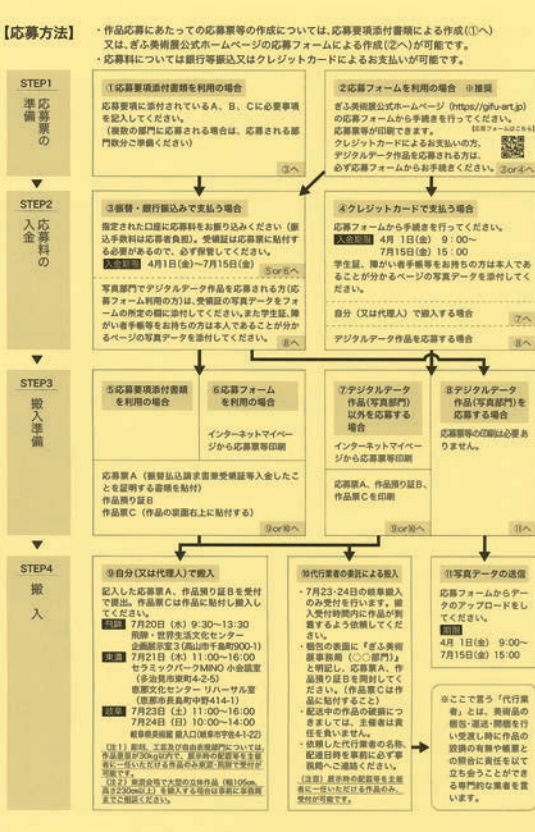


第4回ぎふ美術展応募要項

主催/岐阜県・岐阜県美術館、公益財団法人岐阜県教育文化財団

趣 旨	美術に賢む市民の裾野を拡大し、市民の創造力、鑑賞力の向上に寄与するため、創作活動に積極的に関与する機会を提供する公募展「ぎふ美術展」を開催します。
部 門	日本画・洋画・彫刻・工芸・書・写真・自由表現
展 覧 会 日 時・会 場	令和4年8月13日(土)～8月28日(日) ※月曜日休館 10:00～18:00(8月13日は14:00開場、8月19日(金)は20:00まで、最終日は14:30まで)(入場無料) ◎入賞・入選作品は展示します。 ◎8月13日(土) 13:00～ 表彰式(開催式) 岐阜県美術館 岐阜市宇佐4-1-22
応 募 資 格	制限ありません
応 募 点 数	1部門につき1人1点
応 募 規 定	1点につき2000円(ただし、本学及びこれに準ずる加1,000円、県民生活及び障がい者福祉の分野に属する場合は、令和4年4月1日現在において、高等学校・特別支援学校等に在籍した学生又は社会福祉の分野に属する者、個人(団体)の嘱託、学生の方は学生証等を、障がい者手帳をお持ちの方は障がい者手帳を、小・中学校以下の方は除算証をご提出ください。いずれもコピー・写真撮影でデジタルデータ作品のみ送られる方は、応募の旨をご記載ください。 4月1日(金)から7月15日(金)までの期間にお申し込み又はクレジットカードにより納付してください。※印刷費をご負担いただきます。また、いかに申し込まれたとしても応募は保証されません。 【振込の場合】下記のいずれかの口座へお振り込みください。 振込(振込)手数料は、応募者においてご負担ください。 ゆうちょ銀行 口座番号 00860-1-213361 加入名 公益財団法人岐阜県教育文化財団 十六銀行 支 店 吉 野 民 生 協 会 会 館 協 助 会 所 口座番号 1070185 名 義 人 ザイロバンクキョウイクバンクデザイン 大井町支店 支 店 吉 野 民 生 協 会 会 館 協 助 会 所 口座番号 0015902 名 義 人 ザイロバンクキョウイクバンクデザイン 【クレジットカードによるお支払いの場合】 ぎふ美術館公式ホームページ (https://www.gifu-art.jp) から手続きを行ってください。 応募料を上記期間にお支払いのうえ、ご希望の受付場所へ届けてください。 ・なお、彫刻、工業及び自由表現部門については、作品重量が30kg以内で、配重等を主催者に一任いただける作品のみ、展覧・奨励の対象が可能です。 ・運搬に際しての労務、運搬の恐れのある作品は、展覧への搬入をお願いします。 ・写真部門のデジタルデータ作品については、7月15日(金)15:00までに応募フォームからアップロードしてください。 期 限 7月20日(水)9:30～13:30 期 限 世界生活文化センター 企画展示室3 (高山市千鳥町900-1) 期 限 7月21日(木)11:00～16:00 セラムックパークMINO 小会議室 (多治見市東町4-2-5) 恵那文化センター リハ・ホール室 (恵那市長島町中野414-1) 期 限 7月23日(日)11:00～16:00 7月24日(日)10:00～14:00 岐阜県美術館 観覧口 (岐阜市宇佐4-1-22) ※彫刻、工業及び自由表現部門については、作品重量が30kg以内で、展覧の配重等を主催者に一任いただける作品のみ、展覧・奨励の対象が可能です。 ※重量制限は、全体の重量は、全体の重量は、幅105cm、高さ230cm以上)の受付が可能な場合があります。事前に必ず事務局までご確認ください。

日 本 画	・1辺50cm以上、縦250cm・横200cm以内とする。壁面展示が可能なものに限る。 ・額装する場合、額装の幅は5cm以内とし、作品重量に耐えらるる展示用金具をつけること。 ・なお、ガラス、アクリル共不可とする。
洋 画	・1辺50cm以上、縦250cm・横200cm以内とする。壁面展示が可能なものに限る。 ・額装する場合、額装の幅は5cm以内とし、作品重量に耐えらるる展示用金具をつけること。 ・なお、ガラス不可、アクリル可とする。
彫 刻	・高さ250cm・横・奥行200cm以内(台座含む)。重量1t以内とする。 ・一点に重量が集中する場合は、台座をつけること。
工 芸	・陶器・磁器・漆・金属・陶磁・木工・竹工・七宝・硝子・ガラス・紙・人形・その他とする。 ・展示作品については、縦250cm・横・奥行200cm以内、重量200kg以内とする。 ・組作品の場合、図数は問わないが、上記範囲内に収まるように配置すること。また、必要に応じて展示用金具を添付すること。
書	・縦250cm・横200cm以内とする。壁面展示が可能なものに限る。 ・額装の場合は、ガラス、アクリル共不可。ただし、筆箱及び半切(1.5尺×5.5尺)以下の作品はアクリル可。また、作品重量に耐えらるる展示用金具をつけること。 ・文字性の有無は問わない。なお、文字性のある作品については必ず釈文をつけること。
写 真	・プリント作品については、縦250cm・横200cm以内のバネリ張り又は額装とする。 ・額装の場合は、作品重量に耐えらるる展示用金具をつけること。なお、ガラス、アクリル共不可とする。 ・デジタルデータ作品については、10MB以下とする。公式ホームページの応募フォームからの応募とし、JPEG形式によるものとする。縮小写真の場合、枚数については自由だが、合計50MB以下とする。
自由表現	・上記部門に含まれない又は部門をまたがる芸術表現。 ・平面・立体問わず。高さ250cm、横・奥行200cm以内、重量1t以内とする。 ・映像作品については5分以内とする。D・V・DあるいはB・D(ブルーレイディスク)での応募とし、筆箱及びD・V・D、B・D、ブルーレイディスクで再生可能な形式とする。また、録音録画の2段階に録音を入れること。
応 募 条 件 留 意 事 項	・立体作品については、展示の向きを示す図、安定性を考慮した構造図、写真撮影の指示事項を添付してください。ただし、実際の展示の図と記載が異なる場合があります。 ・組作品、インスタレーション作品などの場合は、配置図を記載又は添付してください。 ・写真部門におけるデジタルデータ作品については、審査及び展示は40インチ程度のディスプレイによるものとし、表示サイズ等については指定できません。また、表示方法はディスプレイでのスライドショー等によるものとし、入選した作品が常設展示されるものではありません。 ・自由表現部門における映像作品について、審査及び展示における再生時間の音声は2chとし、音質については主催者が決定します。また、再生機については55インチ程度のディスプレイによるものとし、表示サイズ等については指定できません。 ・応募は、自己の創作したもので、審査を仰ぐ公衆前で展示されていない作品に限ります。 ・応募は、著作権、肖像権など、他人の権利を侵害しない作品に限ります。 ・複製、複製等複製に同意する権利を保持し、複製権、複製の恐れのあるもの等展示の場面に影響を及ぼすものは不可とします。 ・展示及び展示作業に危険を伴う作品、汚損・破壊の恐れのある作品は不可とします。 ・作品の搬入に、安全の確保、危険がついていないことを搬入に必ず確認してください。 ・作品の搬入受付後に作品に変更を加えることは、原則として認めません。 ・不慮の事故や、不可抗力による作品の破損については、主催者は責任を負いません。 ・提出期限を過ぎた作品の決定については、主催者は責任を負いません。 ・作品の搬入に伴う運搬費の負担は、応募者負担とし、送料等は別途記載させていただきます。 ・氏名・題名を目標、キャプション、賞状等へ記載する際は、お断り二重までとさせていただきます。 ・(団体等は)審査結果を知らせたい場合があります。 ・主催者は、審査の結果発表、記録、広報の目的で、入賞・入選の方の部門、氏名(番号含む)、お住まいの市町村名、作品の題名、作品の写真及び動画を公表できるものとします。 ・その後、応募要項に記載しない個人情報は、事務局からの連絡、質問、審査結果の通知、入賞者への送付、次回応募要項発行に利用させていただきます。
事 前 協 議	・電卓を使用する場合、その他作品規格に設置できない事項については、事務局と事前協議が必要です。なお、協議の上、展示が不可能と判断された場合は、応募を認めないことがありますのでご了承ください。



応募状況

第4回ぎふ美術展 応募・審査結果

	日本画	洋画	彫刻	工芸	書	写真	自由表現	合計
応募点数	64	216	17	88	172	208	116	881
ぎふ美術展賞	1	1	1	1	1	1	1	7
優秀賞	2	2	2	2	2	2	2	14
奨励賞	3	4	3	4	4	4	4	26
入選	21	90	10	44	57	63	35	320
入賞・入選	27	97	16	51	64	70	42	367
入賞・入選率	42.2%	44.9%	94.1%	58.0%	37.2%	33.7%	36.2%	41.7%
県内	55	172	15	71	121	186	88	708
県外	9	44	2	17	51	22	28	173
県外割合	14.1%	20.4%	11.8%	19.3%	29.7%	10.6%	24.1%	19.6%
平均年齢	66.0	59.5	57.0	61.0	48.2	57.4	41.0	54.9

市町村・県別の応募者数

県内

市町村	計	市町村	計
岐阜市	189	岐南町	9
大垣市	61	笠松町	4
高山市	37	養老町	9
多治見市	23	垂井町	15
関市	35	関ヶ原町	3
中津川市	14	神戸町	6
美濃市	4	輪之内町	2
瑞浪市	9	安八町	4
羽島市	20	揖斐川町	11
恵那市	2	大野町	9
美濃加茂市	14	池田町	6
土岐市	6	北方町	5
各務原市	60	坂祝町	1
可児市	33	富加町	1
山県市	13	川辺町	2
瑞穂市	27	七宗町	0
飛騨市	15	八百津町	2
本巣市	16	白川町	0
郡上市	15	東白川村	1
下呂市	6	御嵩町	12
海津市	7	白川村	0
合計		708	

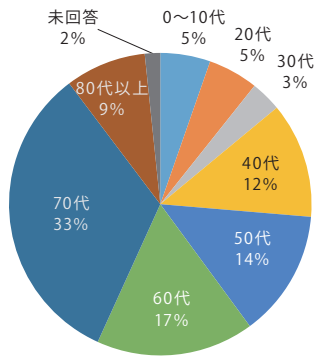
県外

都道府県	計	
北海道	1	
山形県	1	
茨城県	1	
埼玉県	3	
千葉県	3	
東京都	6	
神奈川県	4	
富山県	5	
石川県	2	
福井県	1	
長野県	2	
静岡県	32	
愛知県	85	
三重県	9	
滋賀県	5	
京都府	4	
大阪府	6	
奈良県	2	
香川県	1	
合計		173

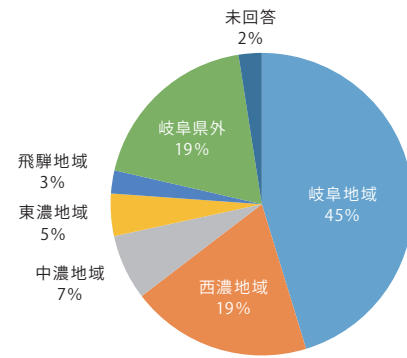
来場者アンケート

対象者 第4回ぎふ美術展来場者（15,279人）
 調査方法 会場内にアンケートコーナーを設置、紙面による任意のアンケート調査
 回答数 243件

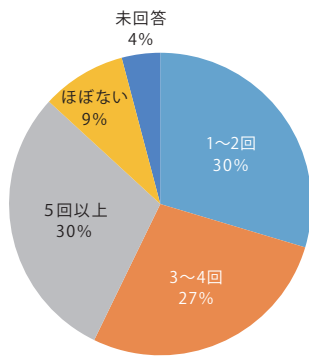
1 年齢



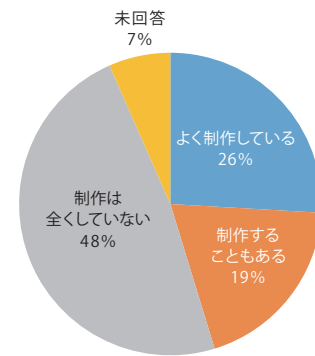
2 お住まいの地域



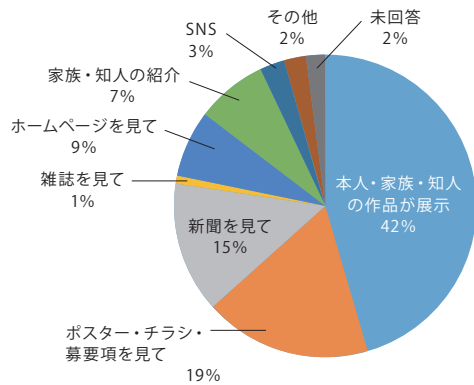
3 各種美術展への年間訪問回数



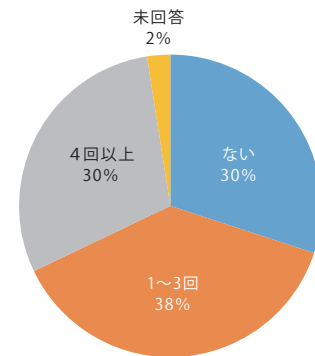
4 美術作品制作



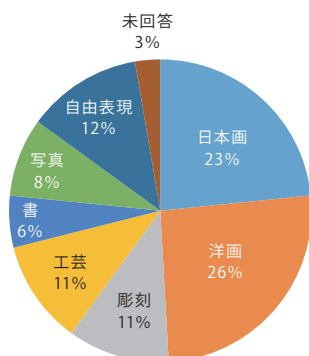
5 ぎふ美術展の開催をどちらでお知りになりましたか。



6 過去に岐阜県美術展（県展）又はぎふ美術展を訪問・鑑賞されたことがありますか。



7 今回、ご関心を持ってご覧いただいたのはどの部門ですか。





作品募集ポスター



作品募集チラシ(表)



作品募集チラシ(裏)



岐阜新聞 (2022.1.22)



岐阜新聞 (2022.7.9)



中日新聞 (2022.1.23)



中日新聞 (2022.7.10)



岐阜新聞 (2022.8.13)



中日新聞 (2022.8.13)



展覧会ポスター



展覧会チラシ (表)



展覧会チラシ (裏)



GIFUTO (2022.2月号/株式会社中広発行)



GIFUTO (2022.8月号/株式会社中広発行)



月刊誌「美術の窓」(2022.3月号/株式会社生活の友社発行)



月刊誌「美術の窓」(2022.11月号/株式会社生活の友社発行)

〈ぎふ美術展応援コンサートの開催〉
 第4回ぎふ美術展の開幕に合わせて、ぎふ美術展の魅力を発信するため、地元の音楽家が出演し展覧会に誘うクラシックの名曲を集めたコンサートを、展覧会場に隣接する岐阜県図書館で開催しました。
 (2022年8月14日)
 主催：(公財)岐阜県教育文化財団
 共催：岐阜県芸術文化会議

- LINE NEWS SNS バナー広告 (2022.4.8 ~ 6.30)
- 岐阜新聞 WEB / Yahoo! ニュース 記事広告 (2022.6.1 ~ 2022.8.28)

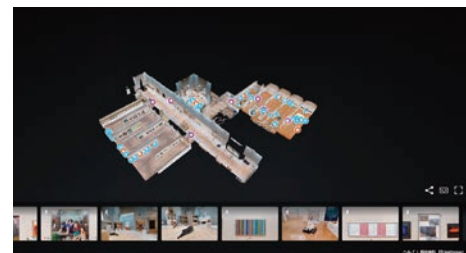


岐阜県美術館正門看板

「3D バーチャル美術展」の公開

新型コロナウイルス感染症の感染拡大及び DX 推進の観点から、ぎふ美術展においては「3D バーチャル美術展」を公式ホームページ上で公開しました。

これは、3D バーチャル技術を活用して、パソコン、スマートフォン、タブレットなどの画面で、まるで自分が展覧会場の中を歩いて移動しているかのような目線で、いつでも、どこでも、どなたでも、4K 相当の高画質の画像で作品を鑑賞していただけるコンテンツです。令和5年1月1日時点で、4,690名の方にお楽しみいただいております。



3D バーチャル美術展①



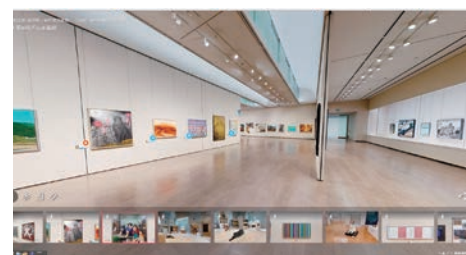
審査員講評パネル



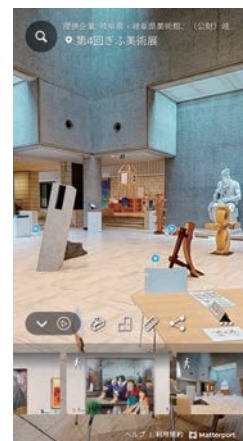
岐阜県美術館エントランスホール看板



展示室入口看板



3D バーチャル美術展②



3D バーチャル美術展③



岐阜県美術館北側看板

「ぎふ美術展」における新型コロナウイルス感染症防止対策の徹底

出入口での消毒液の設置と検温を実施するとともに、表彰式・開場式や関連プログラムにおいては、来場者の入場制限を行いました。催し物への参加者数を制限し、入場者に対しては、マスクの着用、入場状況に応じたソーシャルディスタンスの確保の周知を行いました。

◎ぎふ美術展賞（各部門1点）

重要無形文化財「瀬戸黒」保持者 加藤孝造氏制作 くい呑み



加藤孝造氏略歴

- 1935年 岐阜県瑞浪市に生まれる
- 1954年 日展（洋画）初入選（この年の全国最年少入選）
- 1959年 現代日本陶芸展初入選
- 1962年 日本伝統工芸展に初出品・初入選
- 1963年 朝日陶芸展入賞
- 1969年 東海伝統工芸展最高賞受賞
- 1983年 第1回「加藤幸兵衛賞」受賞
- 1985年 日本陶磁協会賞受賞
- 1990年 美濃陶芸協会会長就任
- 1994年 東海テレビ文化賞受賞
- 1995年 岐阜県重要無形文化財「志野・瀬戸黒」保持者に認定
- 1998年 中日文化賞受賞、岐阜県芸術文化顕彰受章
- 2003年 第4回織部賞受賞
- 2005年 地域文化功労者文部科学大臣表彰
- 2007年 紺綬褒章受章
- 2008年 岐阜県文化功労者顕彰
- 2009年 岐阜県各界功労者表彰、伝統文化ポラ優秀賞受賞
- 2010年 国指定重要無形文化財「瀬戸黒」保持者（人間国宝）に認定
- 2012年 旭日小綬章受章
- 2022年 「重要無形文化財保持者 加藤孝造陶展」（日本橋三越本店）
- 現 在 社団法人美濃陶芸協会名誉会長
岐阜県瑞浪市・多治見市・可児市名誉市民

◎優秀賞（各部門2点）

岐阜県重要無形文化財「黄瀬戸」保持者 安藤日出武氏制作 花生



安藤日出武氏略歴

- 1938年 岐阜県多治見市に生まれる
- 1963年 朝日陶芸展初入選
- 1964年 日本伝統工芸展初入選
- 1971年 日本陶芸展初入選
- 1975年 中日国際陶芸展初入選
- 1990年 第8回「加藤幸兵衛賞」受賞
- 1992年 多治見市文化芸術功労表彰
- 1998年 美濃陶芸庄六賞茶碗展「古美濃茶碗」大賞受賞
多治見市無形文化財保持者に認定
- 2002年 岐阜新聞大賞・文化賞受賞
- 2003年 岐阜県重要無形文化財「黄瀬戸」保持者に認定
- 2011年 岐阜県教育文化功労者表彰
- 2013年 岐阜県文化功労者顕彰
- 2016年 旭日双光章受章
東海テレビ文化賞受賞
- 2017年 「未完のままに」（中部経済新聞社）刊行
- 2022年 紺綬褒章受章
- 現 在 日本工芸会正会員

運営体制

清流の国ぎふ芸術祭運営委員会 委員名簿

役職	氏名	所属機関・団体役職
委員長	神戸 峰男	日本芸術院会員、名古屋芸術大学名誉教授
委員（五十音順）	白井 千里	書家、岐阜県世界青年友の会常務理事
	角田 菜穂子	児童文学作家
	加藤 幸兵衛	陶芸家
	桑原 鑛司	洋画家
	土屋 明之	岐阜県芸術文化会議会長
	仲居 宏二	元聖心女子大学教授
	日比野 克彦	岐阜県美術館館長、東京藝術大学学長
	廣瀬 輝	一般社団法人 中部地域づくり協会 理事長

ぎふ美術展企画委員会 委員名簿

役職	氏名	所属機関・団体役職
委員長	神戸 峰男	日本芸術院会員、名古屋芸術大学名誉教授
副委員長	桑原 鑛司	洋画家
委員（五十音順）	河西 栄二	岐阜大学教育学部教授
	鈴木 徹	陶芸家
	長谷川 喜久	日本画家、名古屋芸術大学教授
	古田 菜穂子	(公財) 岐阜県教育文化財団文化芸術アドバイザー
	前田 真二郎	情報科学芸術大学院大学 [IAMAS] 教授
	横山 豊蘭	書道家、アーティスト、名古屋芸術大学非常勤講師

第4回ぎふ美術展を終えて

「ぎふ美術展」は、69回続いた県展の改革を経て、2018年に再出発し、今回で4回目を迎えました。県内外から881点と大変多くの作品のご応募をいただき、また1万5千人を超える多くの皆様にご高覧いただくなど、今回も大変な盛況となり、改革の成果が実を結びつつあると感じております。

本展は初回から、キャリア、年齢、居住地、障がいの有無にかかわらず公募され、審査には、各分野を代表し第一線でご活躍中の方々を迎え、公開審査を原則に行われております。また、開催の都度、審査員を総入れ替えしていることから、応募作品はもとより選ばれる作品の傾向にも幅が生まれ、展覧会場全体の雰囲気にも変化として現われています。このことも本展の特色の一つとなっております。

本展覧会では普段なかなか接する機会のない作家や評論家の方々に作品審査だけでなく、県民の皆様と直接対話していただける機会を設けようと、展覧会の会期中に、全部門の作品講

評会やトークイベントを催しました。参加された方々からは、多くの満足の声を聞くことができ、また審査の先生方からも「良い企画で、大きな刺激となった」との感想もいただきました。

展覧会の鑑賞のみならず、こうした催しに多くの皆様に足を運んでいただきましたことで、県民の芸術への関心の更なる高まりとなり、創造活動の励みとなるものと思います。

本展の開催にあたり、格別のご協力、ご支援を賜りました皆様に改めて御礼を申し上げます。

次回の「ぎふ美術展」は、準備期間を経て、2024年度に開催します。第4回展の成果を引き継ぎつつ、より開かれた公募展として発展し、回を重ねながら末永く発展していくことを願ってやみません。

ぎふ美術展企画委員会委員長 神戸 峰男

清流の国ぎふ芸術祭
第4回ぎふ美術展
GIFU ART EXHIBITION

発行年：令和5年1月発行

デザイン 伊藤デザイン事務所 伊藤 裕之
印刷 株式会社協和印刷工業
撮影 Choice 宮川 邦雄
編集・発行 岐阜県
公益財団法人岐阜県教育文化財団

本書掲載の肩書さは令和5年1月1日現在のものです。



令和4年度
文化庁
文化芸術創造拠点
形成事業



第39回国民文化祭 第24回全国障害者芸術・文化祭
「清流の国ぎふ」文化祭2024

ともに・つなぐ・みらいへ～清流文化の創造～
2024年10月14日(月・祝)～11月24日(日)